

327
729

福井織染店新案

襦と袴模様新案
大御代の巻



始



大正四年七月改正 御詔御用京染直段書

京都市烏丸通二條上ル 屋福井織染店

◎絹布黒染の部

●横縷子黒(正絹) 古來我國紋付式服の最上位として特秀の趣味に富みたる純良の黒色

御紋付物 金貳圓七拾錢
 中並 金參圓七拾錢
 上並 金四圓七拾錢
 特別 金四圓五拾錢

●黒染(御紋付物一反に付) 金貳圓三拾錢
 上並 金貳圓五拾錢

●紺消し黒(黒と紺と) 御紋付物 金參圓廿錢より
 一反に付

●紅下染本横縷子 特別染(金屏風に好對照) 御紋付物 金拾圓より
 一反に付

●最堅牢 菱屋黒(アリザリン) 大改良 濃厚青文の眞黒色 御紋付物 金四圓五拾錢より
 一反に付

●黒色染直し 御紋付物 金壹圓參拾錢より
 一反に付

◎絹布色染の部 別々に申受候

●緋 普通物一反に付無紋 無地 金二圓二拾錢
 紋付地 金二圓八拾錢

●紺 一反に付無紋 金壹圓九拾錢より
 金壹圓九拾錢

●濃色類 一反に付無紋 金壹圓五拾錢より

●中色類 一反に付無紋 金壹圓貳拾錢より

●薄色類 一反に付無紋 金九拾錢より

●小紋縷染 一反に付無紋 金壹圓九拾錢
 普通形 金貳圓九拾錢
 織形 金貳圓五拾錢

●友仙模様染 一尺に付 柄により金拾八錢より
 帶地 金壹圓九拾錢より

●半襟染 一掛に付 金拾八錢より
 縫入 金拾錢以上より

◎模様染の部

●無双羽織染 一枚分に付 表裏つづきたるま、金九圓より
 表と裏を切斷すれば 金四圓五拾錢より

●襦袢地模様染 金拾八圓五拾錢より

●裾模様染 四丈物 金八圓以上拾八圓

●薄黒 金七圓以上拾參圓

●片縷模様染 四丈物 一反に付 金七圓以上拾參圓

●端懸模様染 四丈物 一反に付 金七圓以上拾參圓

●中立 小立裾模様 以上參種は同一直段に候 金六圓以上拾圓
 薄色 金四圓以上九圓

◎雜種の部

●絹練 布は一反に付 金二拾四錢より
 絹布青練 金三拾六錢より
 絹布白練 金三拾六錢より
 縮二重練 金四拾五錢より
 特別練 金五拾錢前後

●綿布黒染 御紋付物 五つ御紋附金壹圓八拾錢

●黒紺縷染 一反に付 片面 金九拾錢より
 兩面 金貳圓五拾錢より

●色抜 一反に付 金三拾六錢以上金七拾錢

●御紋 一つに付 染抜き 金拾錢より
 張り付け 金拾五錢より
 縫紋 金四拾錢より

▲古物と短尺物とは割高と御承物は割安にて尺直申受候
 右の外細毛の反物にても糸に

◎染物御注文の葉

遠方よりの染物御注文は、先づ小包郵便又は鐵道便にて染生地を染方を明記し、御送附被下候へば精々入念染上げ、代金引換小包を以て納品可致。最も確實に手数を省き至極輕便に取扱申候。

日限の儀は品質と天候とに依り相違有之候へども、色物は十日位黒色御紋附は二十日以内に仕上致べく候。然し古物色抜染直し小切短尺物、小紋染、友仙模様染等は二十五日と御見込置被下度候。

染色見本御要望の方は、男女、年齢、用途、御身分を染生地に添へて御送り被下度。染生地拜見の上にて、數千種の標本より、其染生地に適當なる色を、撰定して御覽に供し可申候。

御好みの色合、御年齢、御職業、御用向を詳示せられ、其以上は専門業者にて御一任、自由の手腕を與へられ候へば、生地と色合其他の關係意匠材料等、それ相應に無理なく出来上り、從て好見染に且は御爲方に染上り候のみならず、御直段も低廉に仕上り申候。

流行と申しても、東京風と京阪好みと、都會と地方は御好み同じからず候。九州と北海道は同じ緋色も色合が違ひ候。農家の御方と醫師様と、堅實なる商人と花柳界の流行、令嬢と女優藝妓と眞様、御式服と御平素着、御服装の調和萬端千種萬様に有之、此故に御職業御身分御聞せ被下度充分入念御意に叶ひ候様に染上申候。

弊店特製の御定紋は總て染抜に有之、殊に老練熟達職工が特に専門に仕上げ候。故に普通の仕入品とは大に異り、優美精巧に出来上り申候。また張付御紋に特秀の職工有之、古物にても素地と紋地と見別の附かざるまで、巧妙完全に仕上げ候間御試み被下度候。

古染替物は、自然に生地痛み居り候に付き、疵の現れる憂ひ有之此段御承知置願上候。又染替直し物は御素人には知れざる、意外の困難なる色合のもの有之候に就き成べく御一任被下候方、總て利便に出来上り候。

染代金は最も公平なる割戻方法として、景品引換券なるものを染物に添附致し居り候。また荷物一箇の染代金拾圓以上は内地の小包郵便料弊店持、同上式拾圓以上の染代(織物代共)は三分引又一ヶ年通じて貳百圓以上の高は別に御相談仕べく候。

京都市烏丸通二條上ル 福井織染店 染物注文用紙

番號	品名	生地幅	丈量	地色	方染		御身丈	御袖丈	御代金	日限	注文主尊名御住所
					御年齢	模様柄					
號	寸	寸	寸	寸	寸	寸	寸	寸	圓	日	所
寸	寸	寸	寸	寸	寸	寸	寸	寸	拾	月	御住所御尊名御明記被下度候
寸	寸	寸	寸	寸	寸	寸	寸	寸	錢	日	御住所御尊名御明記被下度候
寸	寸	寸	寸	寸	寸	寸	寸	寸	錢	日	御住所御尊名御明記被下度候

注文用紙は御一報次第差上可申候。○福井織染店専用他店擬版不許

日本最初公刊機織專門技術書

福井万次郎(美織子)著 明治二十七年二月十六日初版發行 標本四十二種附 明治四十二年一月十日第六版發行

四枚機地合織前編

日本紙和本仕立 正價金貳拾錢 郵税金貳錢 本書ハ織物組織研究ノ初歩トモ謂フヘキ、四枚機織法技術書ニテ、去明治二十七年始テ本書ヲ發兌以來、我帝國機織專門技術書嚆矢ノ公刊書籍トシテ、非常ノ優評ト望外ノ光榮ヲ博シツ、今ヤ第六版ヲ發行スルノ幸運ニ達セリ

- 四枚機地合織の研究前編 第一章 總則 第一項 組織研究の原則 第二項 四枚機に應用する機組圖解 第三項 組織研究の基因種類 第一節 機仕掛け方 第二節 經糸通し順 第三節 踏木へ機を釣る順 第四節 踏木の踏順 第五節 研究に用ひたる經糸と緯糸 第二章 順通し機仕組の研究 第一項 順通しの研究に於ける特殊なる點 第二項 通し順第一號

▲四枚機地合織の研究前編の評 ▲東京 大日本織物協會々報第八十九號の評 四枚機地合織の研究は福井万次郎氏の編にして前編今や世に出たり初學者の爲に一々織見本を添へ之が織法等を詳記したる極めて親切なり ▲上州 桐生雜誌第二號の評 本書は其道を以て有名なる西の機業家福井万次郎氏の著す所にして(中略)標本には一々圖解及び説明を付し且つ振假名を施し如何なる初歩の徒にも解し易からしむ加之に本書は氏が多年經驗せし所を蒐集せしものなれば彼の應用の如何を顧みずして徒に理論のみを走るものとは日本同ふして論ずべからず云々 ▲京都 平安新聞第二百二十四號の評 此書は西の機業家福井万次郎氏が年來の從業記を編め雲村勝邑に師なきを著し初學者の爲に出版せしものなり編中地合の標本を捕み機組圖解を載せ讀者をして毫も遺忘せしむるに可なり且つ尙も機業に従事する人は勿論之に志ある人は一本を購めて可なり云々 ▲岐阜 第十二濃飛日誌第三百八十八號の評 (前略)其編納は千筋に見えずして微塵の如くは飛白の如く手拍の如く放の如くは名状すべからざる一編に見ゆるもの總として十四種の標本あり此分は前中として實際の研究に得たる結果として著すもの尙ほ第二期第三期研究前其の編納の如何を以て後篇として示さしむるに可なり(中略)機織より一切の裝縮を手製の織りにするの便あり ▲足利 織染研究雜誌第四十九號の評 斯業に熱心且熟練なる福井万次郎氏が從來の経験に徴して著されたるもの題目れば初學者と雖も能く理解しうべく當業者に其書云々 ▲東京 日本蠶業雜誌第七十號の評 著者は年々久しく種々の方法を以て報告雜誌等に寄せて織物世界を裨益せる事少からざるに之を以て満足すべく更に四枚機地合織の一編に於て之を校正して新冊子を成すに至る本編は僅に四枚機地合織の一編に過ぎざれども其行文平易にして之に標本を貼付する等著者の親切紙上に充溢せり以て世の當業者の好餘師と稱ふるに足れり ▲仙臺 奥羽日々新聞五千三十三號の評 前編組織研究の原則は地合標本并に機組圖解を以て實験上より集記したるものなれば初學者熱心練習せば大に得る所あらん云々 ▲四枚機地合織の研究前編の評

四枚機地合織中編

日本紙和本仕立 正價金八拾錢 郵税金貳錢 本書ハ前書ノ次編ニテ再版ニ際シ根本的改正ヲ行ヒ綿密正確ノ結果織法非常ニ増加シ現ニ百二十五種ノ織法ヲ掲ゲ百二十五個三百七十五種ノ實物標本ヲ添ユ

四枚機地合織後編

日本紙和本仕立 正價金九拾錢 郵税金貳錢 本書ハ前二書ノ次編ナリ其掲載スル織法數ハ百五十八種ノ多數ニテ其實物編本數ハ一百五十八個四百七十四種ノ大多數ヲ添附セリ以テ本書ノ如何ヲ推知シ得ベシ

▲續要社へ郵便振替口座は一口金壹錢を加へ大阪一二八五番福井織染店宛に願候

四枚機地合織の研究後編の評

▲東京 大日本織物協會々報第九十號の評 此書は既に前編中編共出版せられたるが今般其後編を出版せられたり本書は京師に有名なる機業熱心の福井万次郎氏が多年研究の結果四枚機に對照理解すべき著述せられたれば誠にして斯業者の爲め並に之を研究せんと欲するもの爲め大に參考の資に供すべき冊子也 ▲徳島 徳島新聞第四百三十九號の評 (前略)本編には飛通し仕組の研究といへる大項目を分ちて中編に漏れたる通し順第六項より第九項に至るまでを説明し一々圖畫を描き且つ最後には其標本五十餘個を挿入したるなど用意周到なりといふべし ▲熊本 九州自由新聞第二千四百七十六號の評 本書明治二十年以來出版したる前編中編に次ぎ四枚機地合織の法式百數十種を掲げ百五十餘の實物標本を添へたるものにして前二編を見たるものは此編をも參看せざる可からず織物技術に關する有益の書也 ▲松江 松江日報第二百二十五號の評 (前略)後編は圖解に付するに標本を以て新業研究上の眞書なり云々 ▲東京 日本蠶業雜誌第七〇四號の評 (前略)標本四百四十號乃至第九十七號を置く其記事の簡明にして標本の整理せる前編に比較して幾層の完美を覺ゆるが如し著者一方には機業界の進歩に幾層の進歩の早め且つ高め一方には順序的に大成を期しつつありと絶叫す此の編著の成れる其抱負を窺ふに足らむ ▲仙臺 奥羽日々新聞第六千〇三十四號の評 (前略)其組織の圖解を一々掲載し且つ百數十種の實物標本を貼付したり機業家の爲めに參考となる所鮮少なからず ▲水戸 茨城日報第二百三十五十八號の評 四枚機にて組立得べき組織并に其機仕組等の應用を研究したる結果を集配せしものにて之が研究をなさんとする者には必讀の冊子なり ▲東京 農業雜誌第五百二十八號の評 (前略)京都西陣なる福井万次郎氏が研究に係る該機組立及織物組織の圖解及標本を付し親切に解説したるものなり當業者一讀研究の料云々 ▲岐阜 岐阜日々新聞第四百七十七號の評 著者は(中略)福井万次郎氏が實験の編書なり老成なる同氏が百五十餘種の織物切れを貼り付け詳細に之を説明したるものにて余輩は斯書が機業界に改善を與ふるの甚だ大なるを喜ぶものなり ▲四枚機地合織の研究後編の評

風通緋織教範

正價金壹圓五拾錢 郵税 內 地 金拾貳錢 夔 朝 支 金拾拾錢

風通緋織とは如何なるものぞ (一)風通緋織の原組織 (二)風通緋織を織出す得る経緯数 (三)風通緋織の織機 (四)風通緋織の織法 (五)風通緋織の織組 (六)風通緋織の織法と機組の關係 (七)風通緋織の織法と配色の關係 (八)風通緋織の織法と配色の關係

両面重織法集

正價金拾錢 郵税金四錢

両面重織の珍らしき實益に富み趣味もまた最も深き 實物標本二十三種を添附す (一)両面重織法集は踏分式にて織得る、表裏同一地合の (二)両面重織、及び表裏異なる経二重、緯二重、緯三重、經緯二重、經二重緯二重の両面重織等二十三種の多數を (三)集録し、其織法を詳解して何人にも織事を得せしむ、 (四)其使用の器具は特別なるものを要せず、従前の機具にて可なり、其應用し得る織物の種類左の如し

両面重織法集目次 第一號織法 四枚單綾兩面經二重織法 第二號織法 五枚單綾兩面經二重織法 第三號織法 五枚縞子兩面經二重織法 第四號織法 表八枚單綾裏四枚單綾經二重織法 第五號織法 表八枚縞子裏四枚單綾經二重織法 第六號織法 表八枚單綾裏八枚半數綾經二重織法 第七號織法 表八枚單綾裏八枚半數綾經二重織法 第八號織法 三枚綾兩面緯二重織法 第九號織法 一樂兩面緯二重織法 第十號織法 四枚單綾兩面緯二重織法 第十一號織法 表四枚單綾裏四枚半數綾緯二重織法 第十二號織法 表五枚縞子裏五枚單綾緯二重織法 第十三號織法 表六枚單綾裏六枚半數綾緯二重織法 第十四號織法 表四枚半數綾裏八枚單綾緯二重織法 第十五號織法 八枚縞子兩面緯二重織法 第十六號織法 五枚縞子表裏交成緯二重織法 第十七號織法 四枚單綾と半數綾表裏交成緯三重織法 第十八號織法 表斜子裏平地經緯二重織法 第十九號織法 表平地裏六枚縞子經緯二重織法 第二十號織法 五枚縞子兩面經緯二重織法 第二十一號織法 表菱花形裏山浪形經緯二重織法 第二十二號織法 表平地裏綾地經二重緯三重織法 第二十三號織法 表平地裏四枚單綾經二重緯三重織法

▲強て書籍の代金引換を望む方は先づ貳拾錢以上郵券を送られ度然ら非ば御注文と認す候

▲代金引換小包にて書籍の御注文は平に御斷り申上候 ▲前金の外に送本不致候

風通緋織教範の評

大阪毎日新聞第一萬四百七十五號の評 風通緋織の性質、原組織、機組、経緯数、配色等の事項に關し圖解並に標本を示して親切に之を説明せり斯業者の好參考たるべし 長岡北越新聞第一萬九十三號の評 風通緋織は一に織成緋織と稱し表裏同一に正直的の織を織出す經緯二重織にして其組織は風通緋織と同一なるも配色法を異にし其所要に應じ組法等に就き一々圖解し且つ標本を添へて親切に説明したり 熊本九州日々新聞第九千二百二十一號の評 風通緋織の仕方を詳細に説明圖解し、又織物の標本を添へたり此道の實際家には有益の參考書なるべし 廣島藝備日々新聞第八千四百八號の評 前著其組織風通緋織と同一なるも配色法を異にし即ち配色法は不規則的大形に非ずして所要に應じ濃淡二色或は三色を配位す又普通の風通緋織の如く業家福井氏が其組織を説述せるものにして風通緋織の原組織風通緋織を織出す得る経緯数、指圖の作成考案法、機組、機方等の點に於て知らんことを人の爲には其参考書たる可し 越後高田新聞第九千七百七十二號の評 風通緋織は一名成緋織ともいふ、表裏同一に織を織出す經緯二重織で機方は普通の風通緋織と異らぬ、色取は普通の風通緋織の二色だけのもので配合はなほ、に美しい、此書は其の織方を丁寧に説明したるもので標本まで添へてある當業者は勿論婦人の一讀すべきものである ▲磯原對馬日々新聞第一千四百七十二號の評 風通緋織とは如何なるものぞ、風通緋織の原組織、機組、経緯数、風通緋織の織法、指圖の作成考案法、機組、機方等を詳細に説明し、且つ標本を添へたり此道の實際家には有益の參考書なるべし ▲肥後泰斗新聞第二千二百二十七號の評 斯界の泰斗福井美織子氏著にして優美高尚なる風通緋織の織法に於て其組織、機組、機方等を詳細に説明し、且つ標本を添へたり此道の實際家には有益の參考書なるべし ▲岡山山陽新聞第一萬九百九十七號の評 前著其組織風通緋織とは如何なるものぞ、風通緋織の原組織、機組、経緯数、指圖の作成考案法、機組、機方等を詳細に説明し、且つ標本を添へたり此道の實際家には有益の參考書なるべし

社要織 所賣發

字題君章親崎高等一動位三從事知府都京
序君要塚大士博學工授教學大科工理國帝都京
販君收長社報新織染●序君室松長合組物織陳西●序君子金士學工長校學機染立市都京
著編驗實(子織美)那次萬井福

用應の器釣機

添種八十六百物實●錢貳拾地內稅郵圓四金●洋スーロク總
冊一全立仕

本書は機數五十二枚以下にて織得る、所謂普通中等織物各種の織法を實驗上より説明し、一々之れが活用の例證を擧げて機釣器の用途應用を述べ、機釣式にて織得る限り其織法をも兼説せり、尙ほ文意を補ふ爲め鮮明なるコロタイプ寫眞版を以て實際を現し、精巧なる石版圖面四百餘木版圖二百數十を挿入し、卷中には分類の實物標本實に活用の一端を示せり、書中六の百種に近き織法の意匠は皆實用的にして、單に歐米の意匠を直寫したる如き我國に不當のものに非ず、著者獨占の福井式機組圖解と兩々相映じて本書の経緯となり、著者が半世の勞苦と幾多の辛酸を印刷したる趣味ある活技術書にして、今や版を重ねる二回、空前の機織を博して斯界に喝采の榮

機釣器の應用目次

第一章 總説	第二章 織物の指圖	第三章 機組圖解	第四章 機釣器(トビー)	第五章 機仕掛法	第六章 耳の設備	第七章 平地織類	第八章 綾地織類	第九章 二重織類
第一項 總説	第一項 指圖の指圖	第一項 機組圖解	第一項 機釣器の構造及運轉	第一項 機仕掛法	第一項 耳の設備	第一項 平地織類	第一項 綾地織類	第一項 二重織類
第二項 織物の指圖	第二項 指圖の寫眞法	第二項 機組圖解	第二項 機釣器の製造及運轉	第二項 機仕掛法	第二項 耳の設備	第二項 平地織類	第二項 綾地織類	第二項 二重織類
第三項 機組圖解	第三項 機組圖解	第三項 機組圖解	第三項 機仕掛法	第三項 機仕掛法	第三項 耳の設備	第三項 平地織類	第三項 綾地織類	第三項 二重織類
第四項 機釣器(トビー)	第四項 機釣器(トビー)	第四項 機釣器(トビー)	第四項 機仕掛法	第四項 機仕掛法	第四項 耳の設備	第四項 平地織類	第四項 綾地織類	第四項 二重織類
第五項 機仕掛法	第五項 機仕掛法	第五項 機仕掛法	第五項 機仕掛法	第五項 機仕掛法	第五項 耳の設備	第五項 平地織類	第五項 綾地織類	第五項 二重織類
第六項 耳の設備	第六項 耳の設備	第六項 耳の設備	第六項 耳の設備	第六項 耳の設備	第六項 耳の設備	第六項 耳の設備	第六項 耳の設備	第六項 耳の設備
第七項 平地織類	第七項 平地織類	第七項 平地織類	第七項 平地織類	第七項 平地織類	第七項 平地織類	第七項 平地織類	第七項 平地織類	第七項 平地織類
第八項 綾地織類	第八項 綾地織類	第八項 綾地織類	第八項 綾地織類	第八項 綾地織類	第八項 綾地織類	第八項 綾地織類	第八項 綾地織類	第八項 綾地織類
第九項 二重織類	第九項 二重織類	第九項 二重織類	第九項 二重織類	第九項 二重織類	第九項 二重織類	第九項 二重織類	第九項 二重織類	第九項 二重織類

本書は單に機釣器の使用法のみを説明したるものにあらず、階分式にて織り得る限り其方法を説き織法を根本的に解説したる活技術書にして要するに普通中等織物全書の資格を完備するもの也

▲織要社へ郵便振替口座は一口金壹錢を加へ大阪一二八五番福井織染店宛に願候▼

社告の八

社要織 所賣發

機釣器應用製織標本帖四百種全部三冊の内

綾地紋の部 標本二百種附美仕立本紋 正價金貳圓也 郵稅拾貳錢

▲▼平地紋の部(品切れ)近々再製仕候
▲風通織の部(品切れ)近々再製仕候

五枚機織法集	日本織物史全	織物秘傳集	廣益紋帳大全	小紋大觀	しまとかずり
福井万次郎(美織子)著	我國織物界唯一の歴史なり	東洋織物講習會西原勝三郎君著(但し標本なし)	本書は我國各種の紋形の最も大なる書籍にして書中二千三百五十種の紋形を示し且模様方の著方輪廓花押印形紋切方を列記せり	古谷雪山君著(新圖案書)	
實物標本十二種付	郵稅 金拾五錢	定價 金六拾錢 郵稅 金四錢	郵稅 金四拾錢 郵稅 金八錢	賣價 壹圓五拾錢 郵稅 金拾貳錢	賣價 貳圓四拾錢 郵稅 金拾貳錢

▲入金次第直に送本可致候▲一切貸賣不致候▲弊社の書籍は正價の外販賣を謝絶致候▼

福井織染店新考案 石版數度流行色刷、實物形模様架

棲と裾模様新圖案 賣價 金五拾錢 郵稅 金八錢

青木恒三郎君著 實地染色法全 (百四十餘頁) 賣價 金拾五錢 郵稅 金四錢

青木恒三郎君著 實地染色新法全 (百十餘頁) 賣價 金拾錢 郵稅 金四錢

福井織染店特製 流行絹布色染標本帖 合本 附正價金壹圓五拾錢 郵稅 金七拾錢 合本なし正價 金七拾錢 郵稅 金六拾錢

福井織染店特製 新柄友仙更紗染標本 正價 金壹圓八拾錢 郵稅 金拾貳錢

福井織染店特製 小紋染標本帖 (最新流行優美華麗) 賣價 金壹圓八拾錢 郵稅 金拾貳錢

社告の九

和歌山縣知事正五位勳三等伊澤多喜男君題字
 福井万次郎(美織子)著 實物標本十八種添附
第五版 搦織編 正價 金七拾錢
 郵稅 金四錢

ろおりの技術を研究し之に依て實益を求めんと欲せば本書に依るの外良策なし

搦織編 目次

第一章 總説	一 搦織とは如何なる織物なるや	第二章 搦織の歴史	一 西陣の紗織の詳解共通事項	二 共通の説明	三 價格と商語及び貨金	四 經絲の原料と其糊の方法	五 緯絲の原料と其用法	六 丈幅及び延縮	七 織の說明	八 機仕掛と材料機發圖解	九 振機と踏踏法の呼吸	十 入代の解説	十一 地經と耳經の通し法	十二 平地系統の紗と絹の織法	十三 三越絹の織法	十四 五越絹の織法	十五 七越絹の織法	十六 太綿布絹の織法	十七 機發及び附屬器具の明細圖解説明あり何人にてても一見製作する事を得
第二章 段絹の織法	一 新らしき絹織法の研究	第三章 改良絹の織法	一 改頁絹の織法	二 絹縮絹の織法	三 胃絹の織法	四 霞絹の織法	五 米絹の織法	六 立梓絹の織法	七 市松絹の織法	八 階段絹の織法	九 斜子絹の織法	十 綾絹の織法	十一 絶間絹の織法	十二 花形絹の織法	十三 表形絹の織法	十四 堅絹の織法	十五 太綿布絹の織法	十六 太綿布絹の織法	十七 太綿布絹の織法

社告の十

▲搦織編の評▼

▲東京 報知新聞 第一萬三千二百拾號の評
 搦織とは心絲と轉絲との兩種の經絲を以て緯絲を搦み織たる織物の總稱にして著者は西陣の本場に在りて實地の經驗深き人、從て本書は實際に重きを置きて説明せるは言ふ迄もなく巻頭十八種の標本を添へて機業家の好資料とせり

▲水戸 いはらき新聞 第七千百號の評
 夏の名物とし優雅なる搦織の織方其他につき學術と實際を應用して何人にも解りうるやう記述したり

▲東京 東京日々新聞 第一萬三千四百三十六號評
 搦織既ち地經(心絲)と搦經(轉絲)との兩種の經絲を以て緯絲を搦み織る紗絹の織方に就き平易に講述せり

▲大阪 大阪毎日新聞 第一萬九百九十五號の評
 本書は本邦搦織の本場なる京都西陣の實際に就き著者多年研究せる所に基き搦織に關する種々の織法及其他の事項に就き標本、圖解等を捕りて詳解せるもの

▲東京 時事新報 第一萬九百八拾九號の評
 明治二十八年初めて機織法集第一編として初版を出し其後三版より改題し今五版を出すに當り殆んど改訂せしもの搦織の説明歴史より西陣の紗と絹の詳解織法及び新らしき絹織法の研究等を懇切に圖解説明せり機業家の一鑿に供すべし

▲搦織編の評▼

織要社發行書籍標本卸賣直段書

(一) 弊社發行の書籍及び標本帖類追々新刊併に再版發兌に際し原料増々暴騰致し諸材料工賃等一切皆元高に有之此儀御高察願上候就ては今後左記卸賣割引直段に一定致候間何方様たりとも此以外割引不致候間不惡御承引置の上舊倍の御盡方を以て精々澤山御賣捌被下度奉希上候

(二) 一・二時前金御注文高に對し(五圓以下割引不致候)

- 一金五圓以上 書籍正價の五分引
- 一金拾圓以上 同 七分引
- 一金貳拾圓以上 同 一割引
- 一金五拾圓以上 同 一割五分引

(三) 標本帖は右の半額より割引致兼候
 (四) 荷造費は弊社持に致候へ共運賃は御買方持に願上候
 (五) 織要社への御送金は福井織染店の郵便振替口座大阪千二百八十五番へ御拂込被下度候

弊社機織技術書の行商人募集

明治二十七年以來茲に二十餘年間弊店及び他の書舖に於て販賣し來り候我技術書を偶然にも呉服悉皆商の方が地方行商の片相手に販賣せられ一人にて一箇月の賣上高百圓に達したる實例あり
 茲に行商の有利を認め行商人を募集す行商の人は少しにても機心あれば充分なり男女年齢に關わらず片相手の仕事にても收益多し御望の方は返信券附にて照會ありたし

織染に關する書籍は一切取揃販賣仕居候に附弊社科目表外の書籍にても御注文被下度早速御用達可仕候
 追て織染及び其原料等に關する書籍御發行の方は御一報被下度相當販賣方御相談仕可候

織染専門書林 織要社 敬告

社告の十一



大御代巻の第一壺

雨袴模様
一名江戸袴模様

東京新成衣社

發賣所 東京市丸の内二條上 織要社

●印は小包郵便にて送る事を得○印は小包郵便にて送る事能はず候

竹箴 油竹製

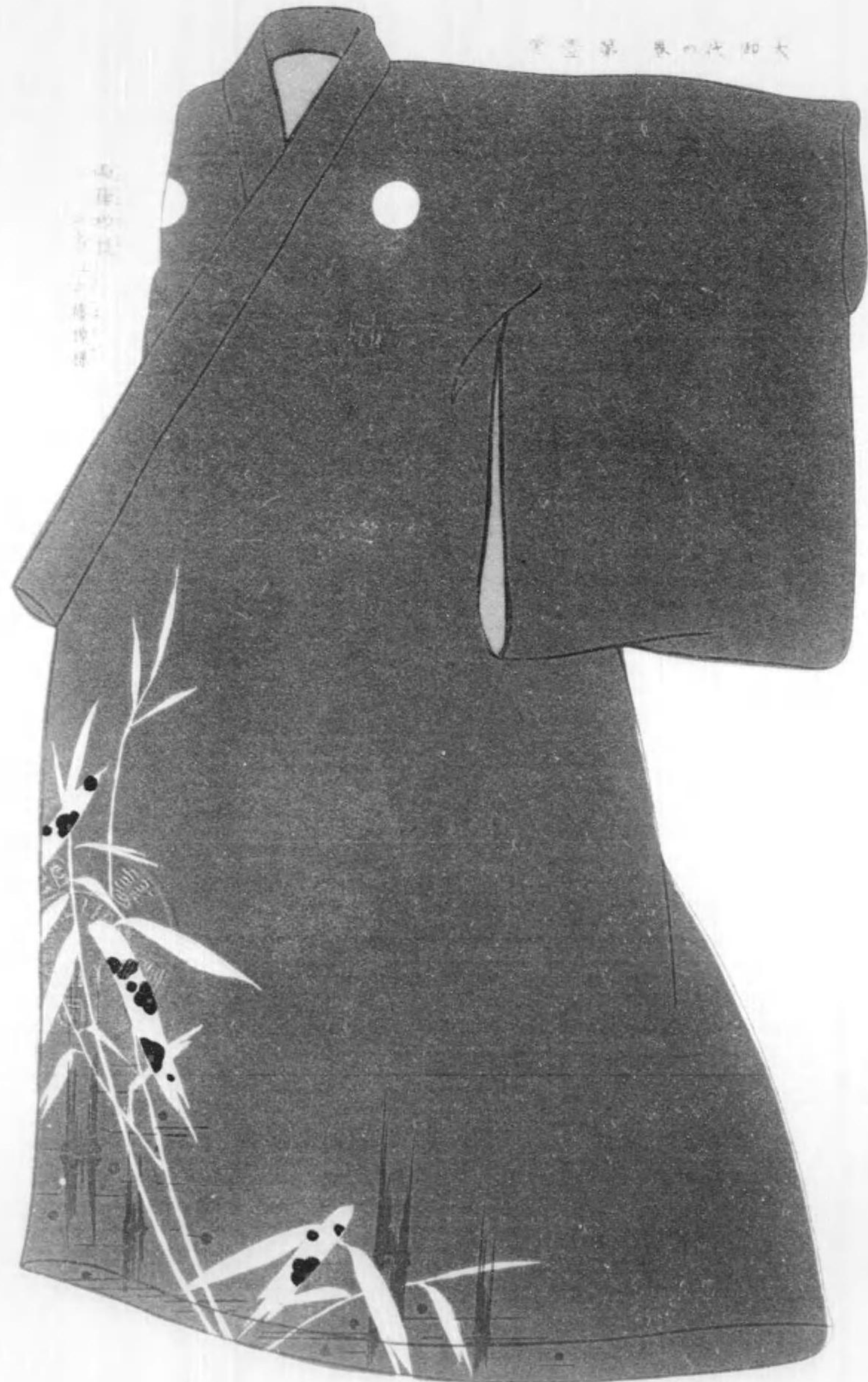
<p>一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十</p>	<p>金六拾四錢 金八拾貳錢 金壹圓拾八錢 金壹圓拾四錢 金壹圓拾貳錢 金壹圓拾錢 金壹圓八錢 金壹圓六錢 金壹圓四錢 金壹圓二錢 金壹圓 金八錢 金六錢 金四錢 金二錢</p>
---	---

●指用紙 十枚以下破費
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十

●機釣器ドビー

<p>口の四十二 羅上げ板二十四枚 并に栓及び弓一式付 金六</p>	<p>口の四十四 羅上げ板二十四枚 并に栓及び弓一式付 金七圓五拾錢</p>	<p>口の二十五 羅上げ板五十二枚 并に栓及び弓一式付 金八</p>
--	--	--

東京市丸の内二條上 東京新成衣社



大正十三年三月

社要織 所賣發 市都京 九通二條上

<p>竹箴 油竹特製</p> <p>一ヨミとは箴四十箇を云ふ</p> <p>鯨一十二ヨミ 金六拾四錢 尺一十三ヨミ 金八拾貳錢 市尺十四ヨミ 金壹圓拾八錢 尺十五ヨミ 金壹圓拾四錢 尺十六ヨミ 金壹圓拾貳錢 尺十七ヨミ 金壹圓拾錢 尺十八ヨミ 金壹圓八錢 尺十九ヨミ 金壹圓七錢 尺二十ヨミ 金壹圓六錢 尺二十一ヨミ 金壹圓五錢 尺二十二ヨミ 金壹圓四錢 尺二十三ヨミ 金壹圓三錢 尺二十四ヨミ 金壹圓二錢 尺二十五ヨミ 金壹圓一錢</p>		<p>郵税成二枚迄八錢三枚以上五錢づゝ、 五枚以上五分引十枚以上一割引</p> <p>●かなをさ 鯨一尺巾 十三ヨミ以下 拾四錢の割 十三ヨミ以上 拾貳錢の割 外に普通一枚約拾八錢の割</p>	
<p>●織物分解顕微鏡 試験専用 金七拾錢郵税八錢 机上用 金七拾錢郵税八錢 懐中持金五拾錢郵税八錢 義塾製等鑑別にも必要缺くべ からざる真器也</p>		<p>●指圖用紙 十枚以下販賣セ 一號十ノ八角形 五錢 二號八ノ八角形 拾五錢 三號八ノ八角形 拾五錢 七號八ノ八角形 拾五錢 十號無界考案兼用 八錢 五十枚以上一割引 一號十號は十枚毎貳錢宛其他十 枚四錢づゝ郵税申受候</p>	
<p>●製織場寫眞 機織寫眞繪端書 五枚一 舊式空引絞織機 五錢 萬山式メカニク 五錢 動力絞織機 五錢 綴綿織機 五錢 下ビ織機 五錢</p>		<p>●ジヤメカニカ ○百の口 拾貳圓五拾錢 ○二百の口 貳拾圓 ○三百の口 貳拾圓 ○四百の口 貳拾圓 ○五百の口 貳拾圓 ○六百の口 貳拾圓 ○七百の口 貳拾圓 ○八百の口 貳拾圓 ○九百の口 貳拾圓 ○千の口 貳拾圓 ○千二百の口 壹圓五拾錢 ○千三百の口 壹圓五拾錢 ○千四百の口 壹圓五拾錢 ○千五百の口 壹圓五拾錢 ○千六百の口 壹圓五拾錢 ○千七百の口 壹圓五拾錢 ○千八百の口 壹圓五拾錢 ○千九百の口 壹圓五拾錢 ○二千の口 壹圓五拾錢</p>	
<p>●標本貼附用の臺帖 一 一番形 總付 金文字番號入 百種貼附用卅五錢郵税八錢 二 二番形 總付 大形織物を貼 甲 貳圓郵税拾錢 乙 壹圓郵税拾錢 丙 五拾錢郵税八錢 右の外御望に依り調製可仕候</p>		<p>●杼ヒ 郵税拾錢づゝ パツタン絹織大 九拾五錢 パツタン絹織小 七拾五錢 パツタン絹織用 參拾五錢 手織絹織用 貳拾五錢</p>	
<p>●機釣器ドビー 確上げ紋板二十四枚 并に栓及び弓一式付 金六 外に遠方送り荷造箱代 八拾五錢申受候</p>		<p>●並市 絹織用貳圓八拾錢 ○二丁杼並市 六圓五拾錢 ○リイホン五幅織 拾圓五拾錢</p>	
<p>●擦絨機 荷造費 木綿用ツム廿四本立 拾四圓 絹用ツム十二本立 拾貳圓 縮用ツム十八本立 貳拾圓</p>		<p>●一時に十二杼を繰取る西 陣從來器改良絲線機械 ○小杼 百圓(釘入上々) 金七圓 金五圓</p>	
<p>●ドビー機 機糸ト調製賃とも糸數一千筋 に金壹圓九拾錢と外に機板一 枚分四錢宛割</p>		<p>●口二十五 卷上げ紋板五十二枚 并に栓及び弓一式付 金八 外に荷造箱代壹圓拾錢</p>	

●印は小包郵便にて送る事を得○印は小包郵便にて送る事能はず候

社告の十二

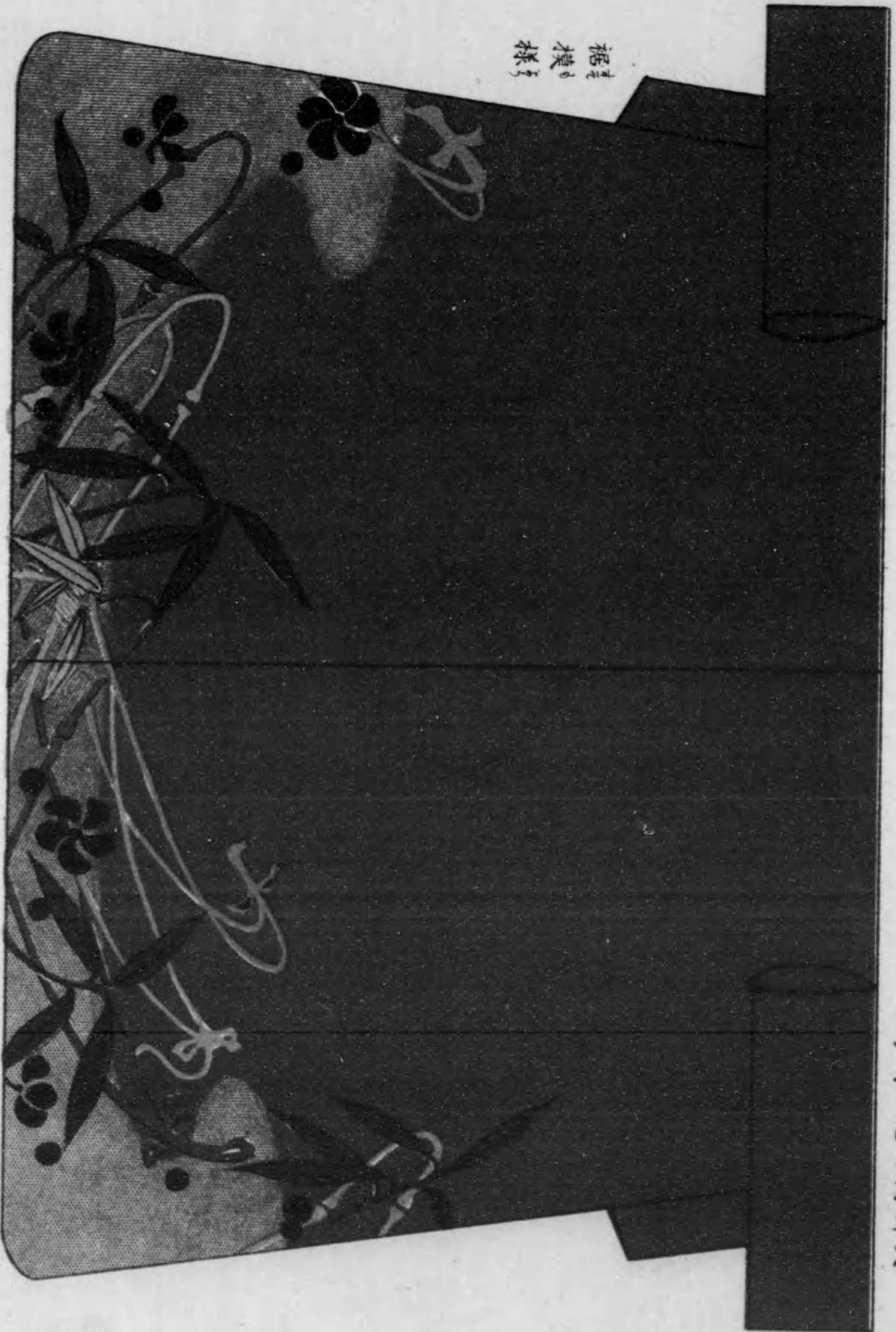
候受申ナ税郵ノ規定ニ別ハ國外他其支鮮臺リナ税郵ノ地内ハ税郵包小上以

大御代の巻 第一貳圖



片襦袢
一名下前襦袢

福井藩蔵新圖案



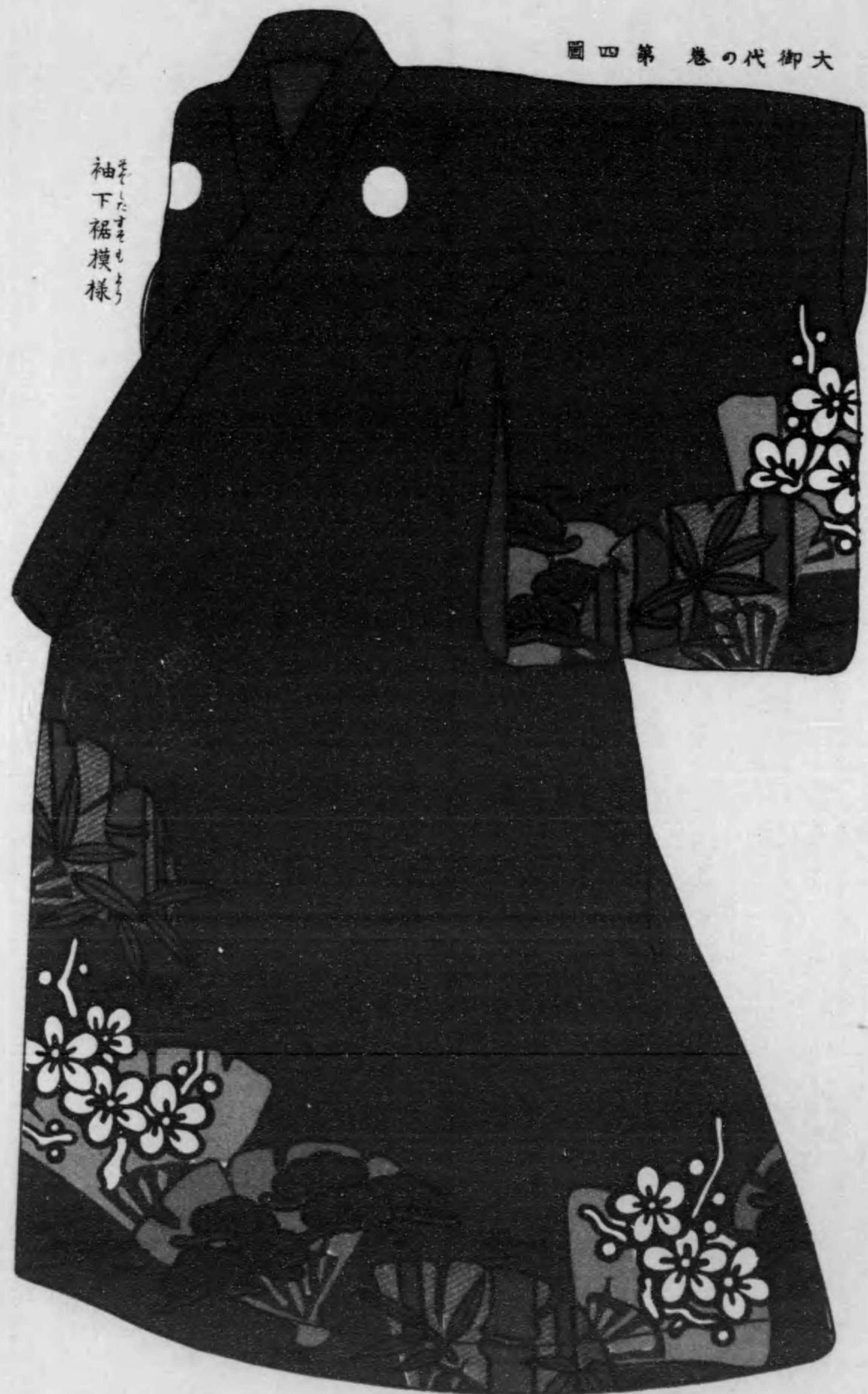
裾
襷
様

大御代 袴の 第 季 圖

裾襷の 袴 樣 圖

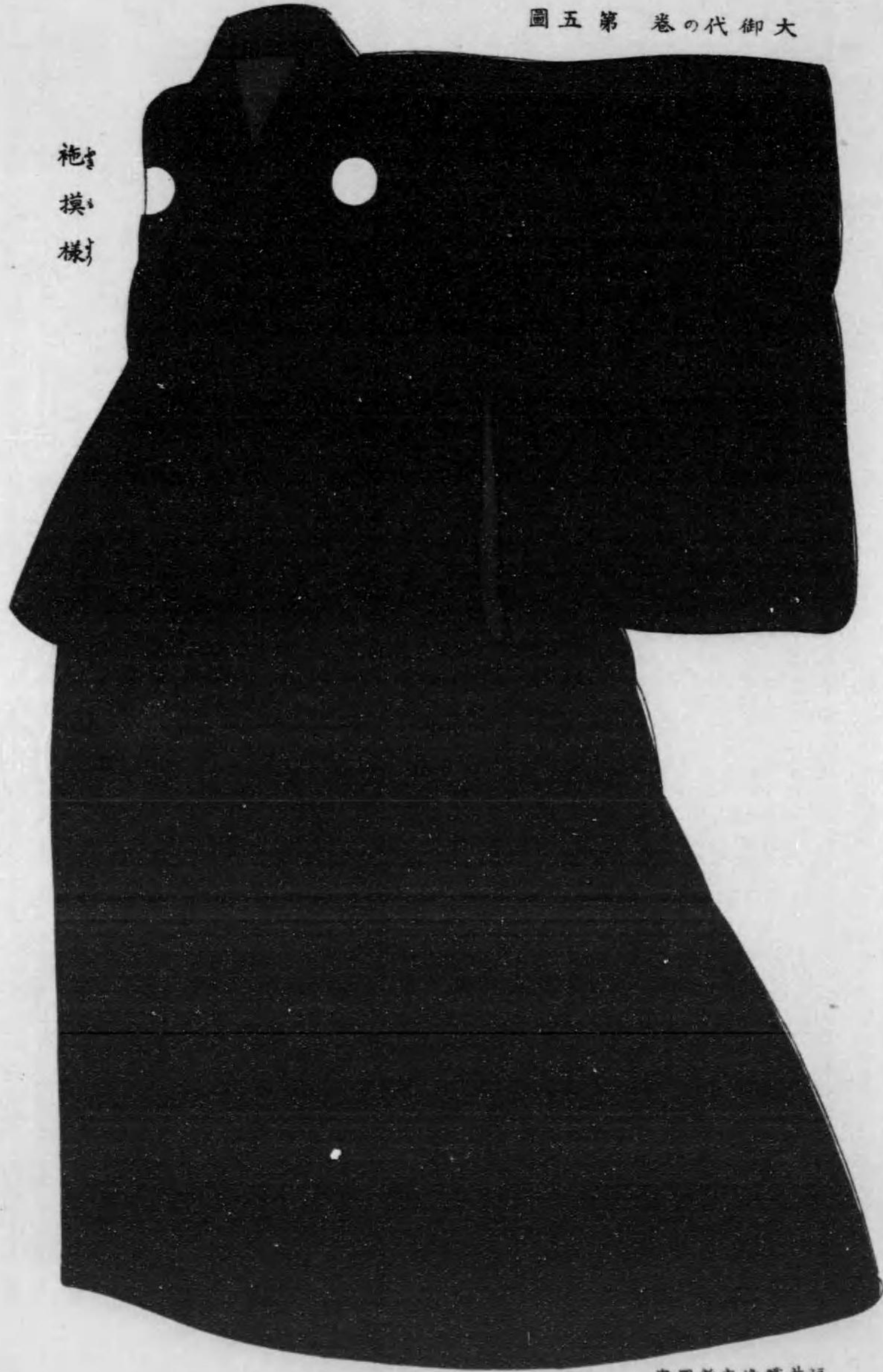
大御代の巻 第四圖

袖下裾模様



福井織造存新圖

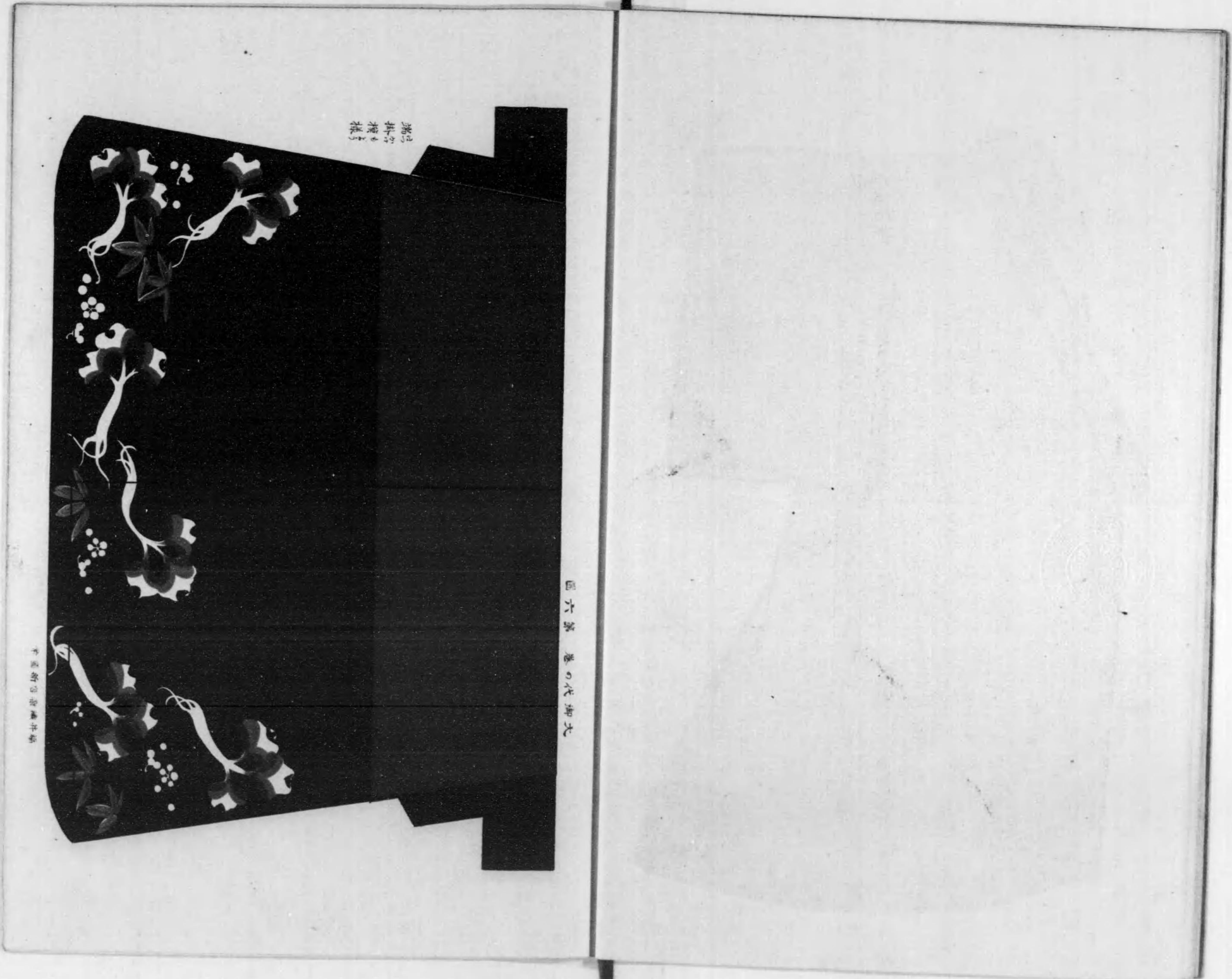
大御代の巻 第五圖



襦
袢
樣

福井織染店新圖案



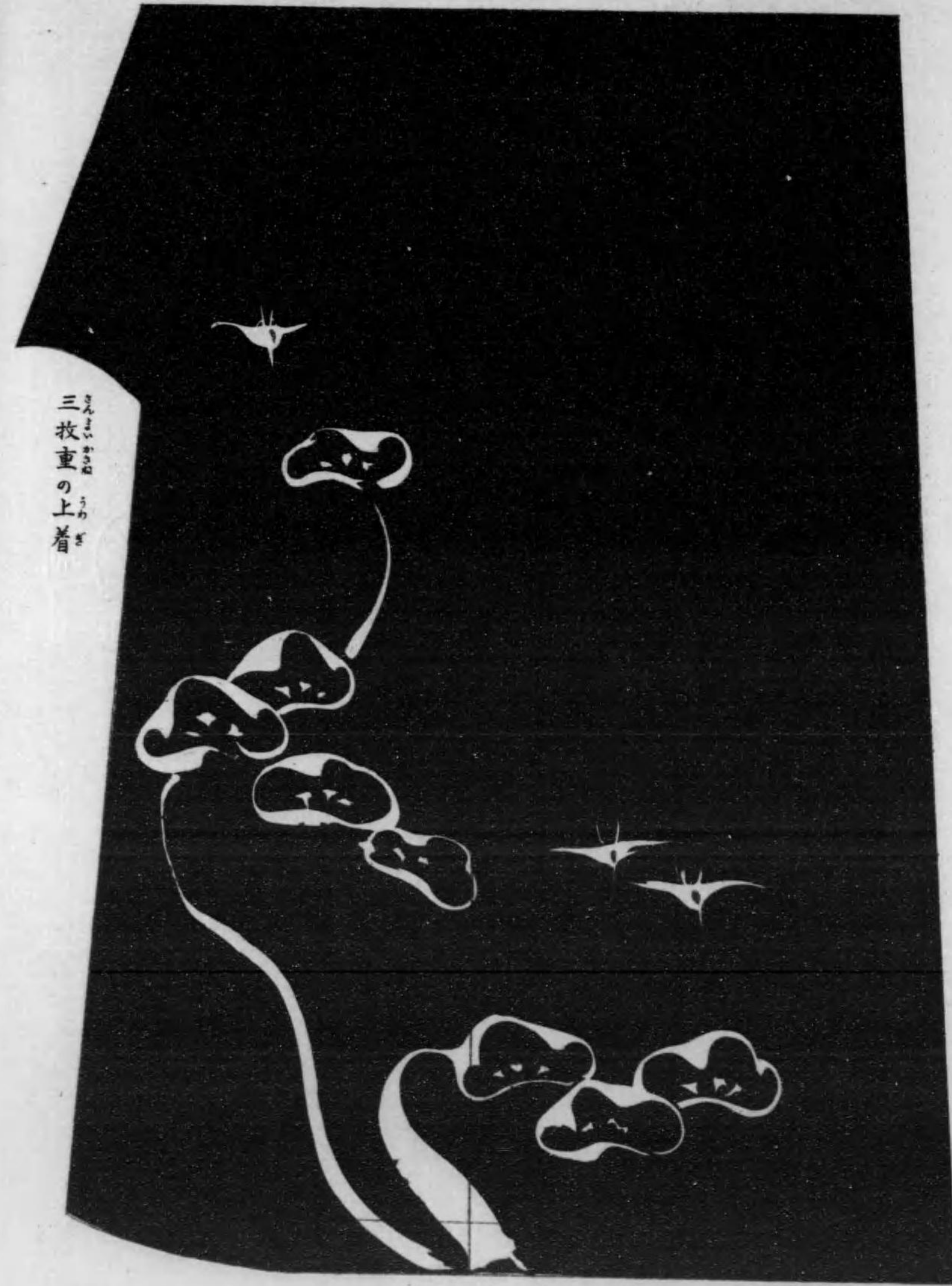


圖六第 卷の代御丸

湯
掛
糺
様

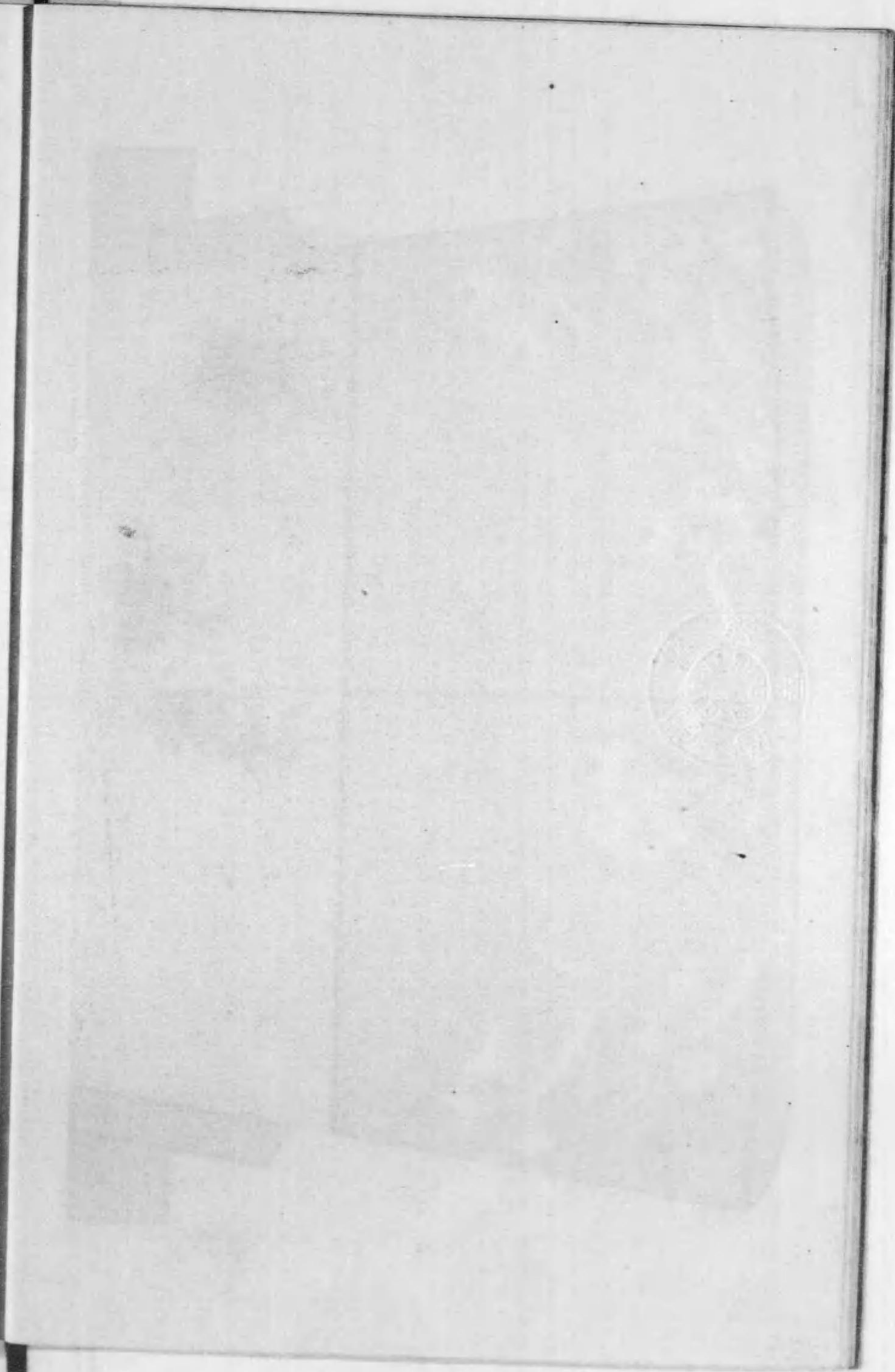
千原新宮宗廟并編

大御代の巻 第七圖

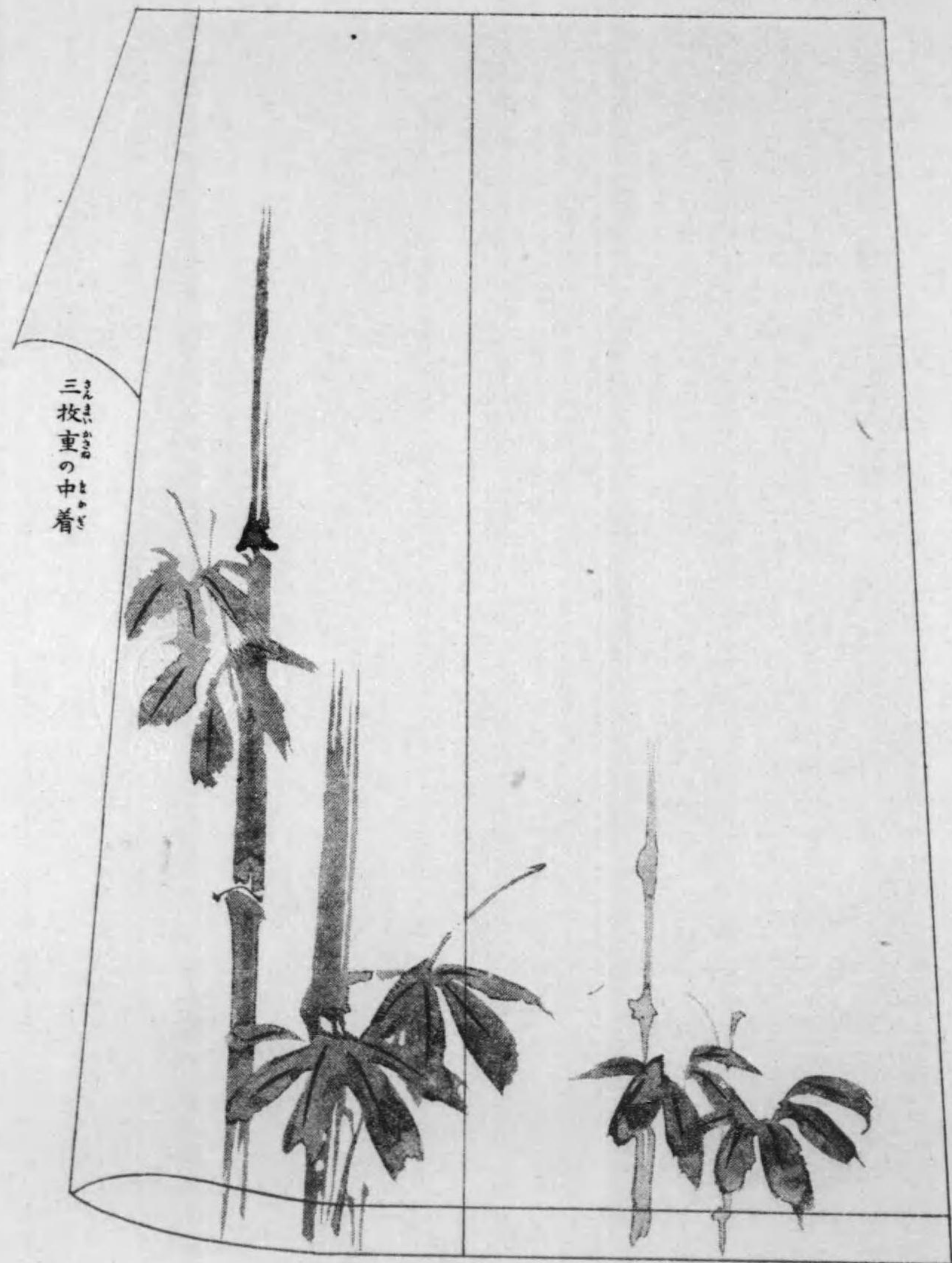


三枚重の上着

東京新島津染織井橋



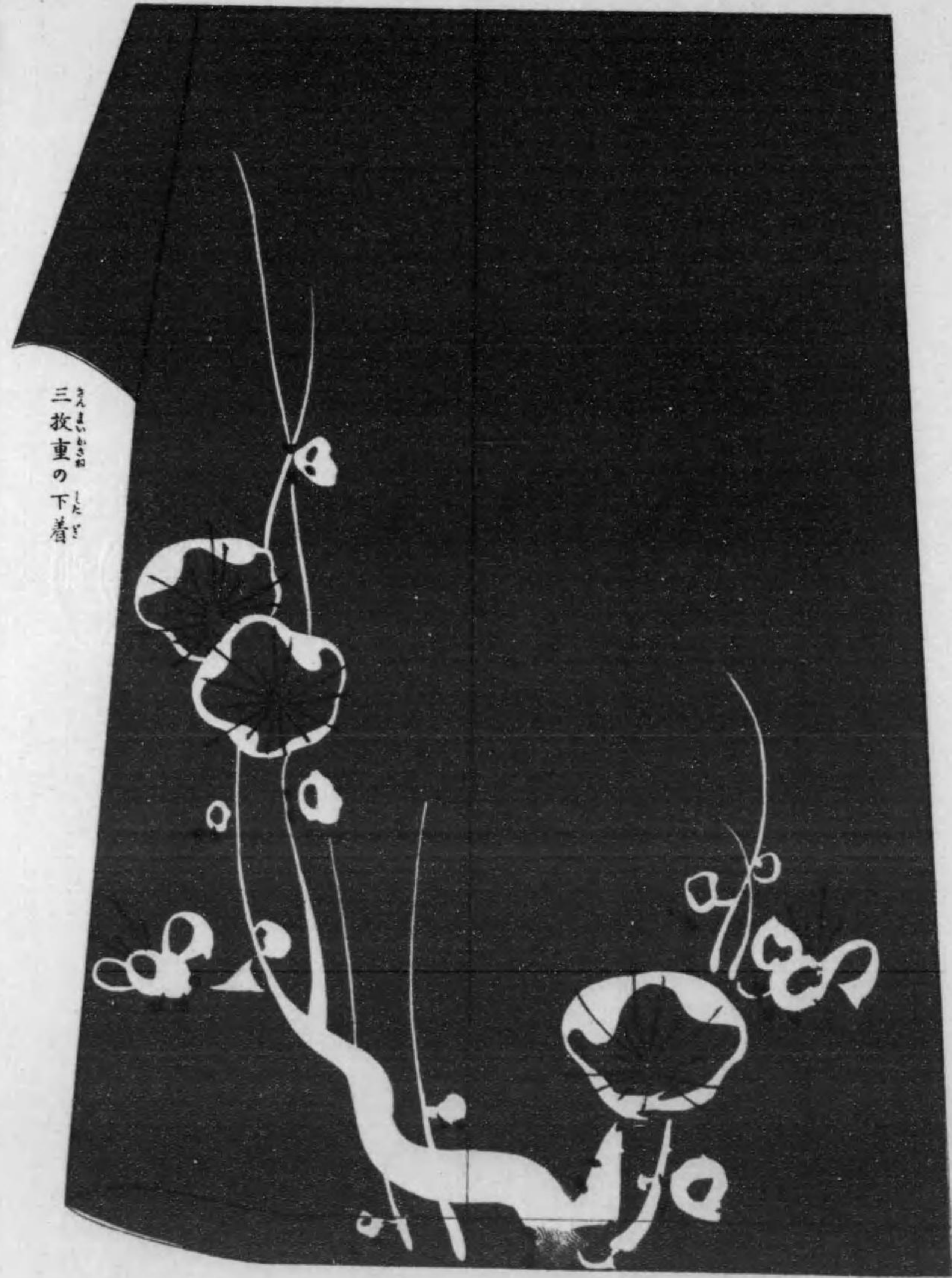
大御代の巻 第八圖



三枚重の中着

福井織染店新園茶

大御代の巻 第九圖



三枚重の下着

福井織染店新圖案

大御代の巻 第十圖



福井縣立商店新圖



大御代の巻 第十壹圖



編井染店新圖



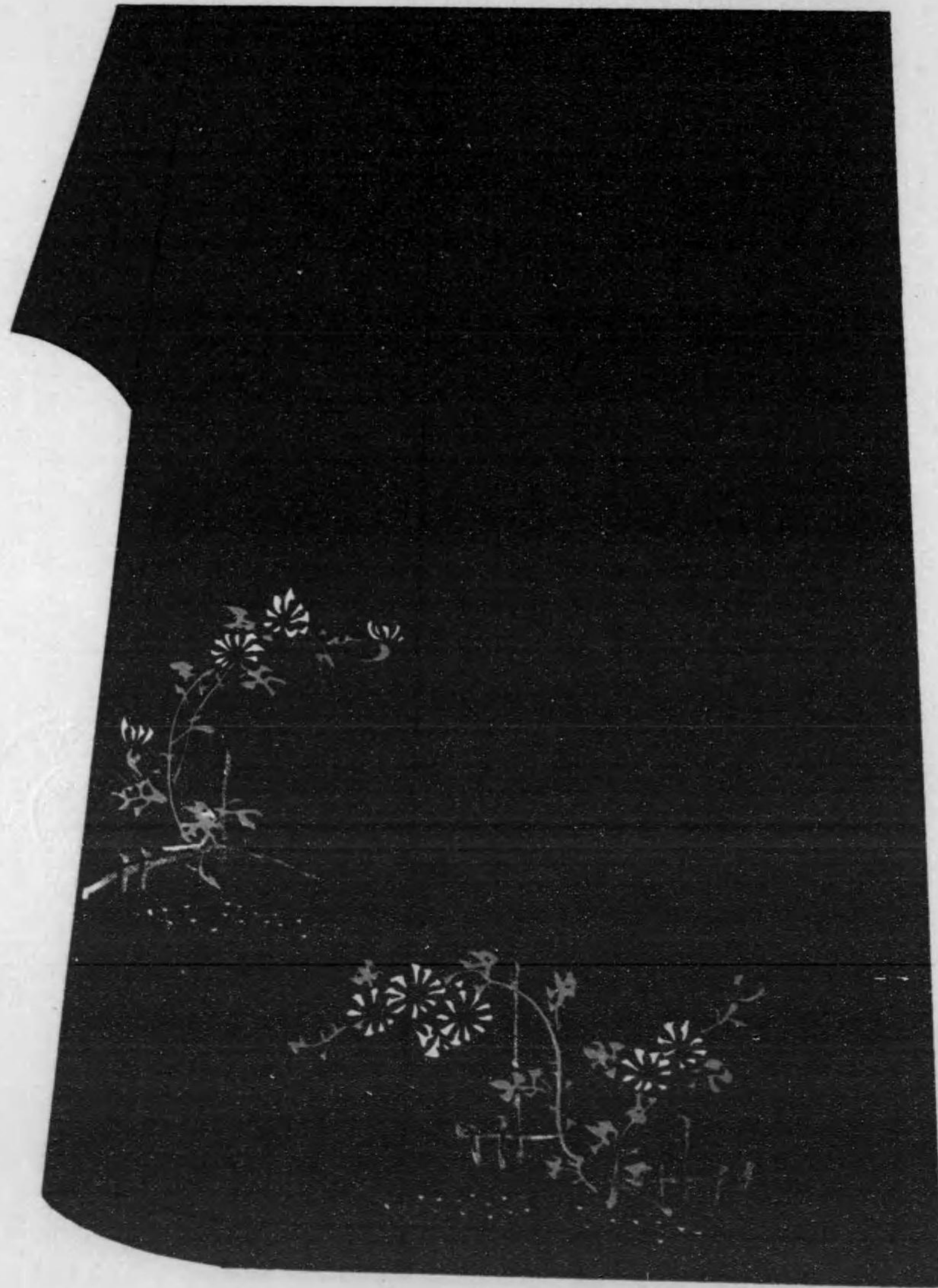
大御代の巻 第十貳圖



権井法源新圖



大御代の巻 第十卷 圖



福井県漆器研究所

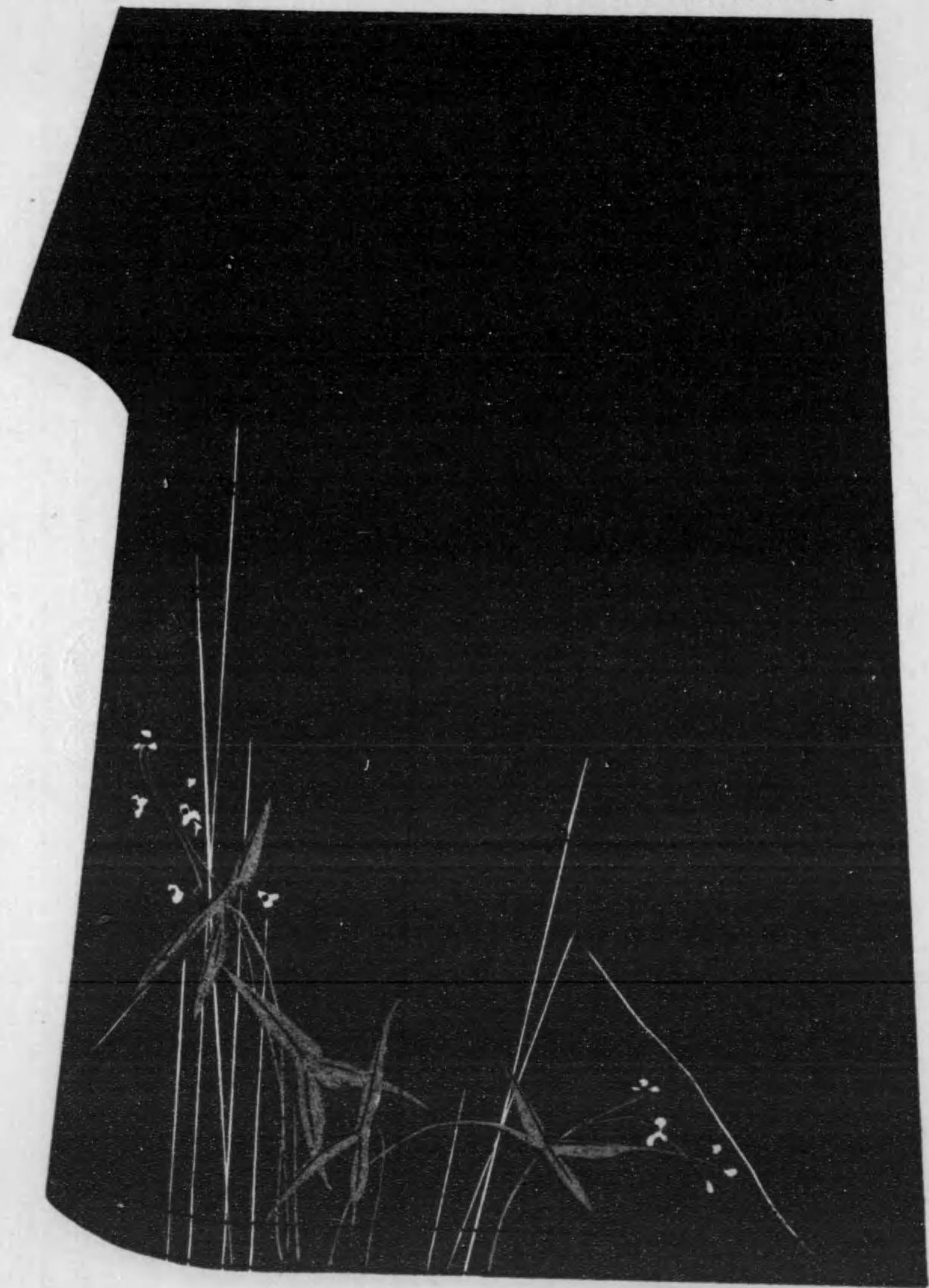
大御代の巻 第十四圖



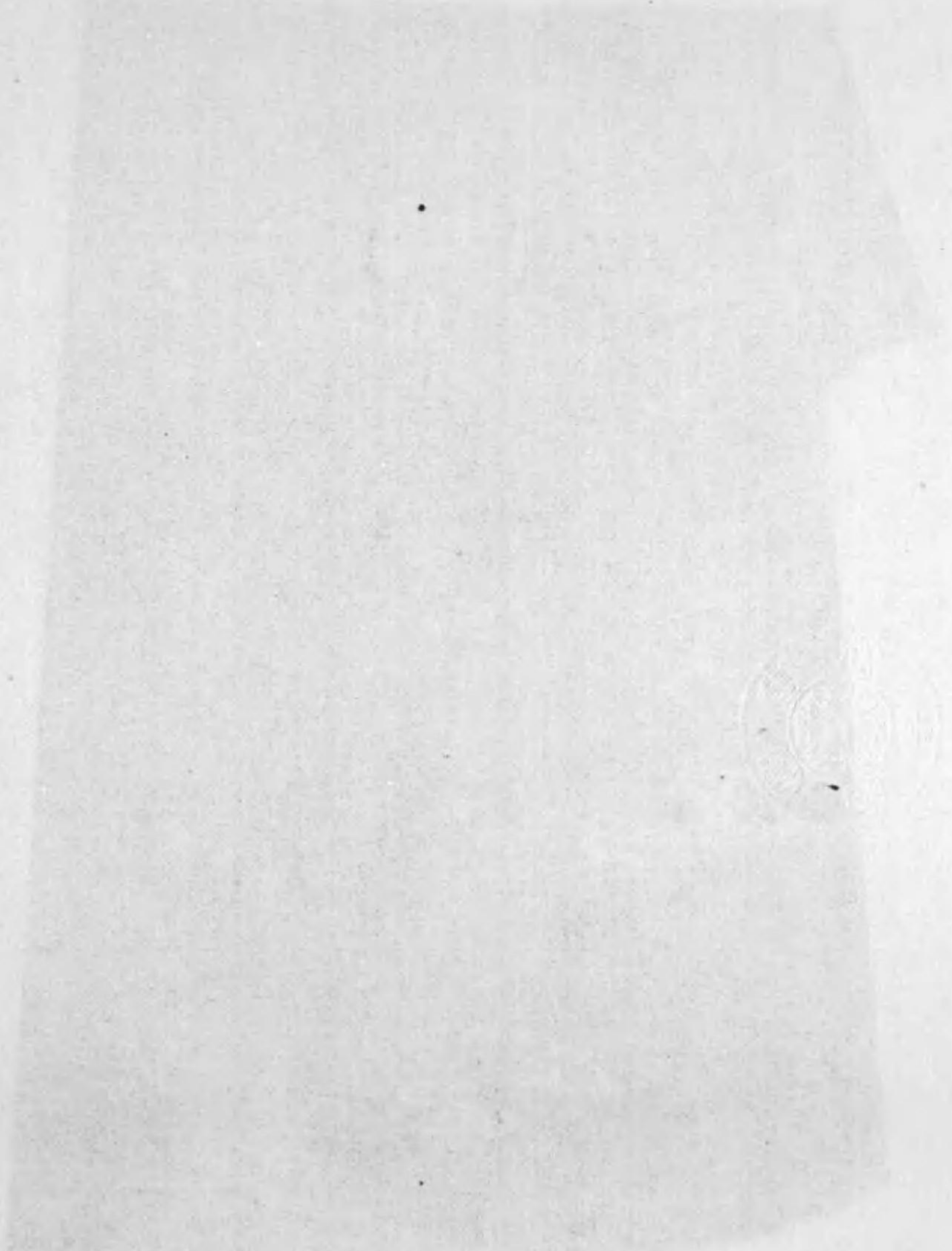
東京国立博物館蔵



圖五拾第 卷の代仰大



紫園新書堂藏并繪



大御代の巻 第六拾圖



福井織染新居新園

大御代の巻 第七拾圖



福井藩の巻物

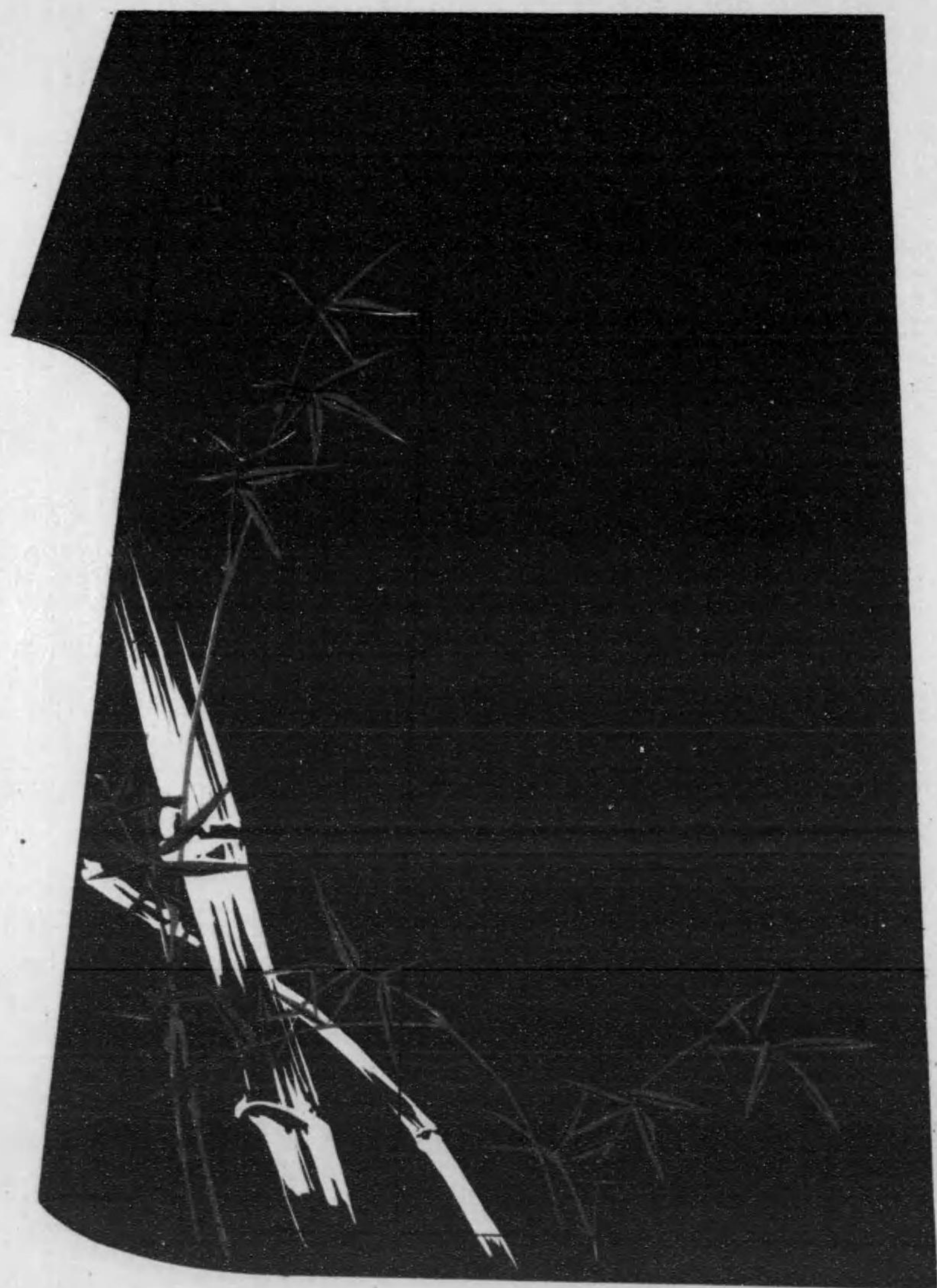


大御代の巻 第八圖

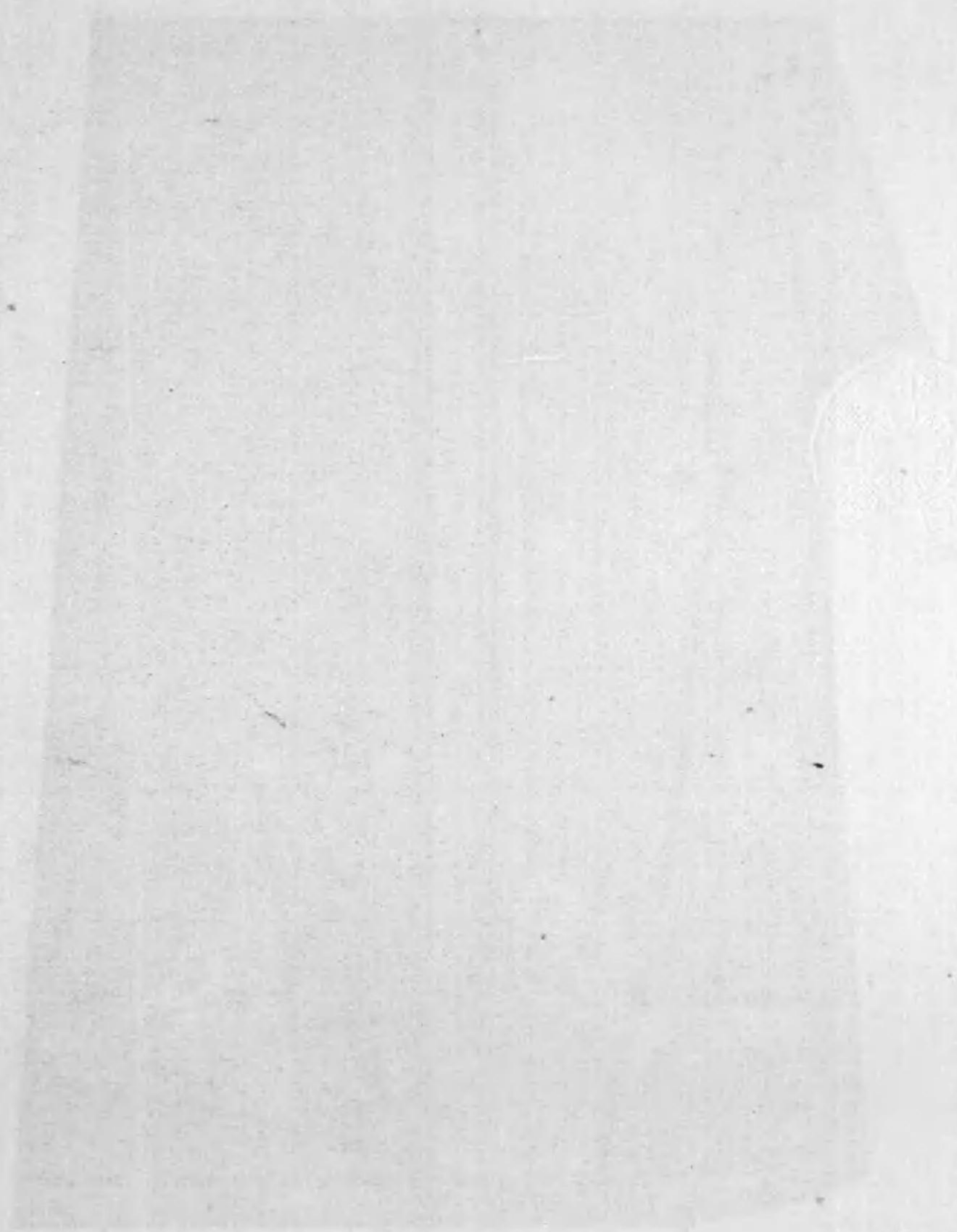


福岡織染店新圖本

大御代の巻 第九拾圖



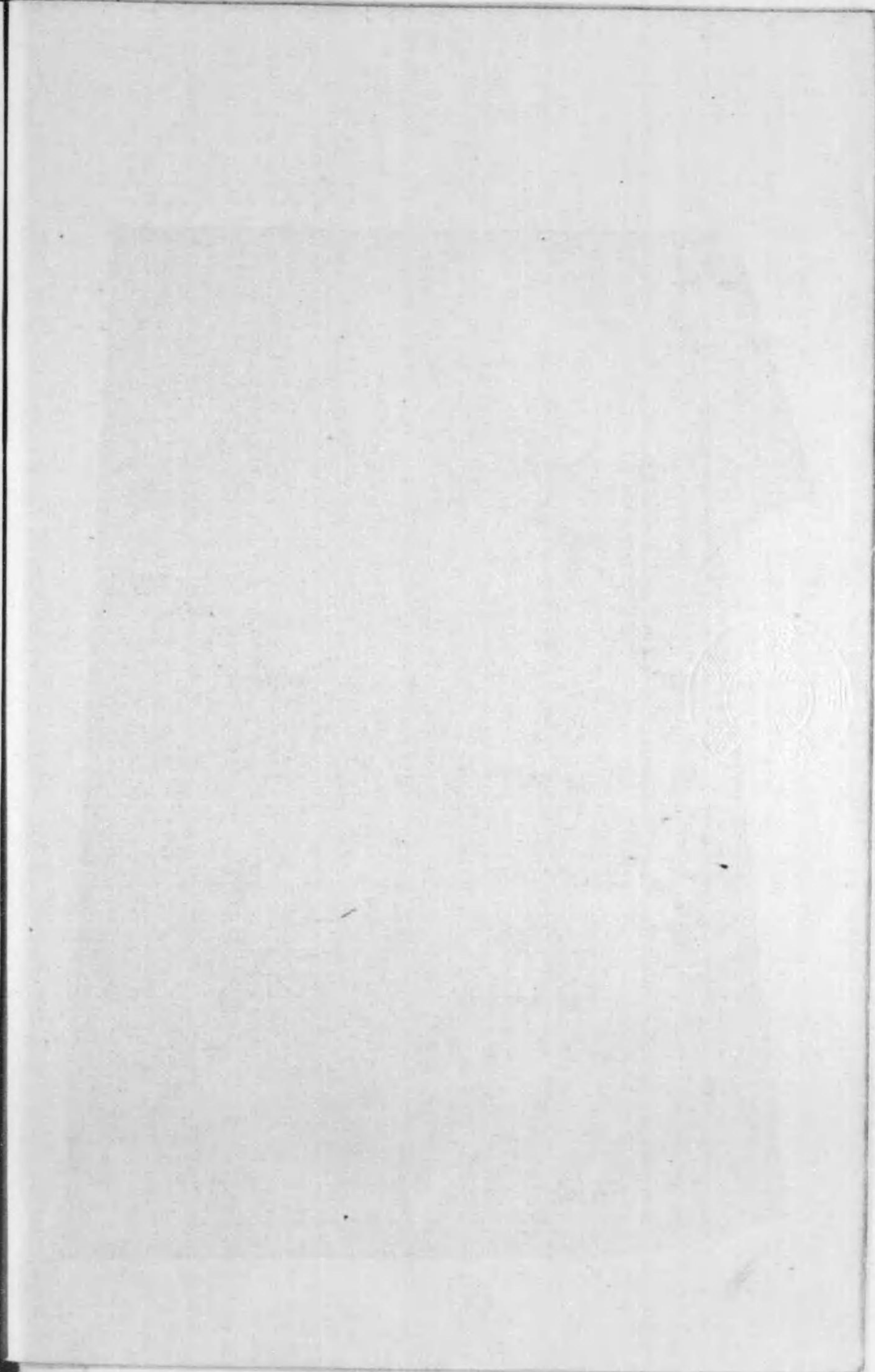
松井鐵店新圖案



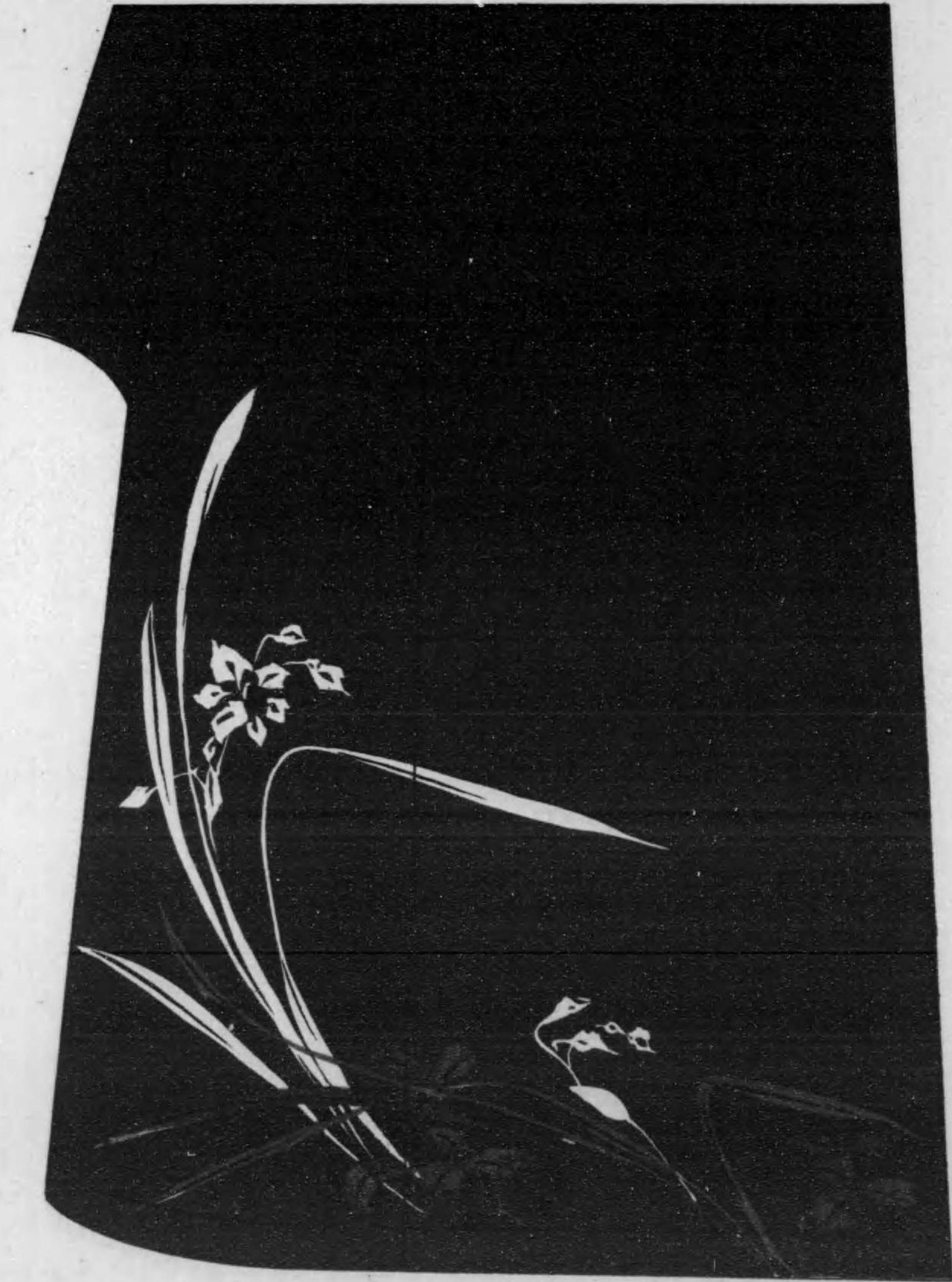
大御代の巻 第二拾圖



結井殿御所御宗



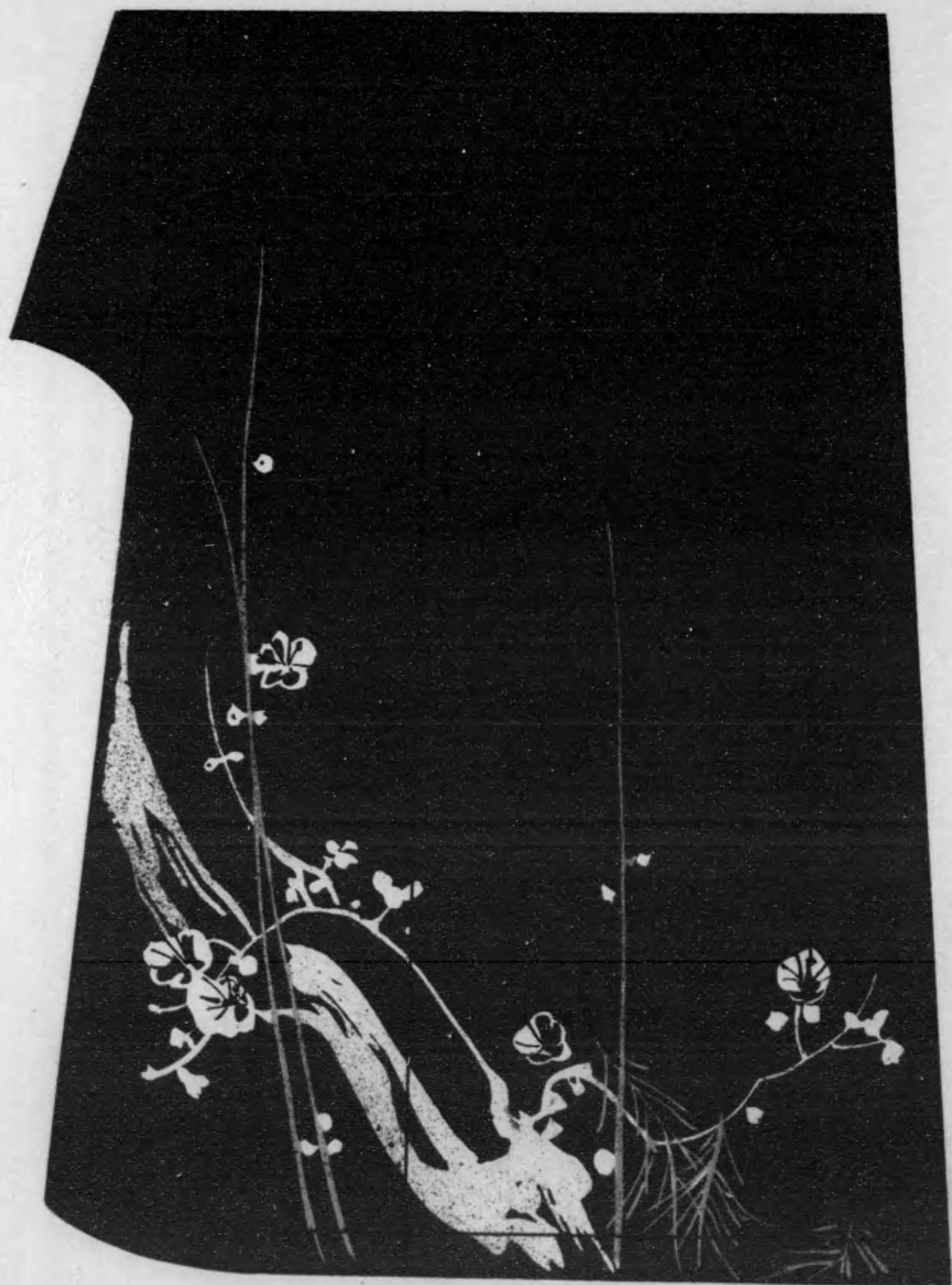
大御代の巻 第壹圖



福井織染店新圖案

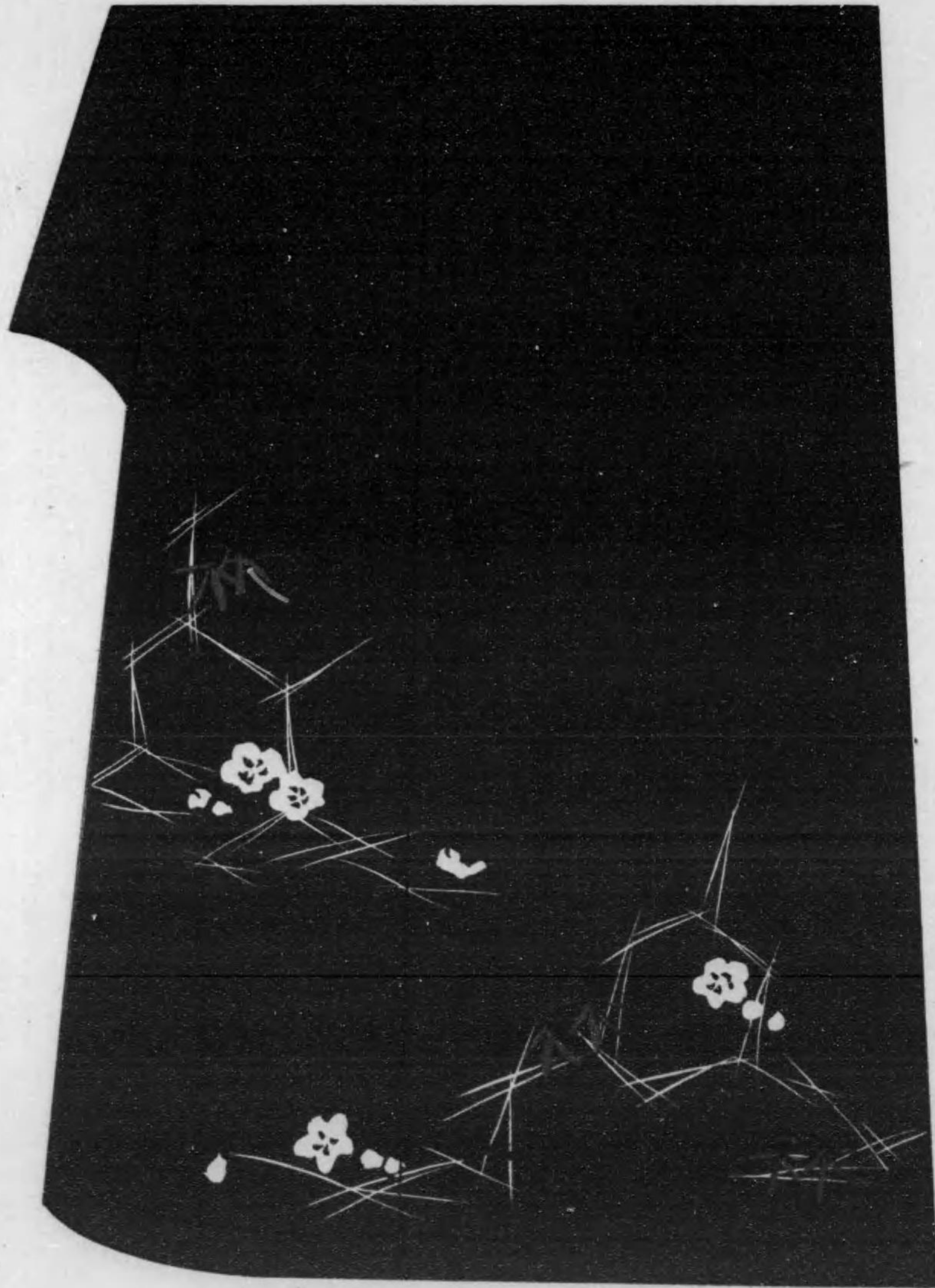


大御代の巻 第廿四回



袖井紙染唐紙圖案

大御代巻 第廿卷 圖



堀井藏店新圖案

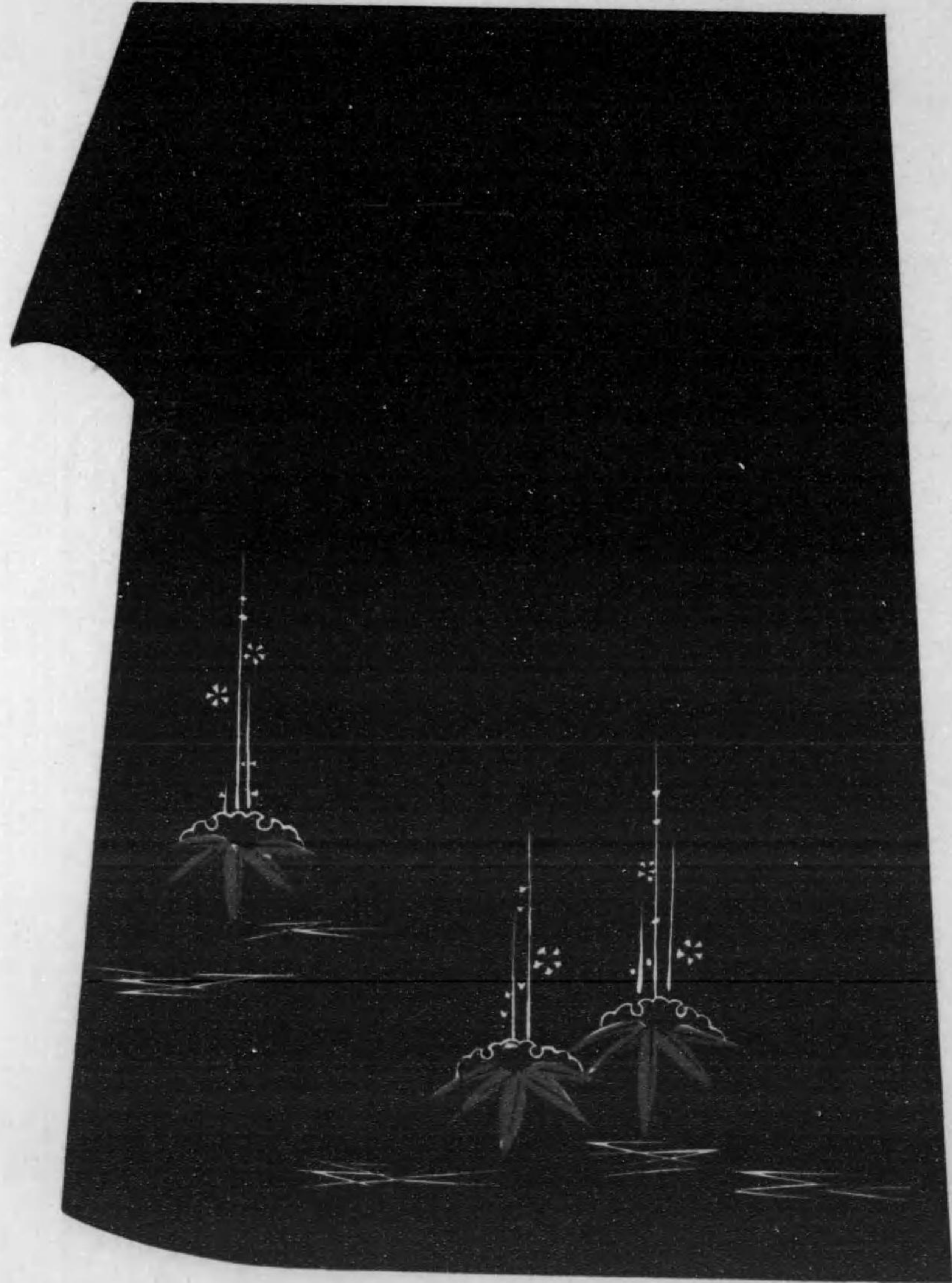


大御代巻 第四仕

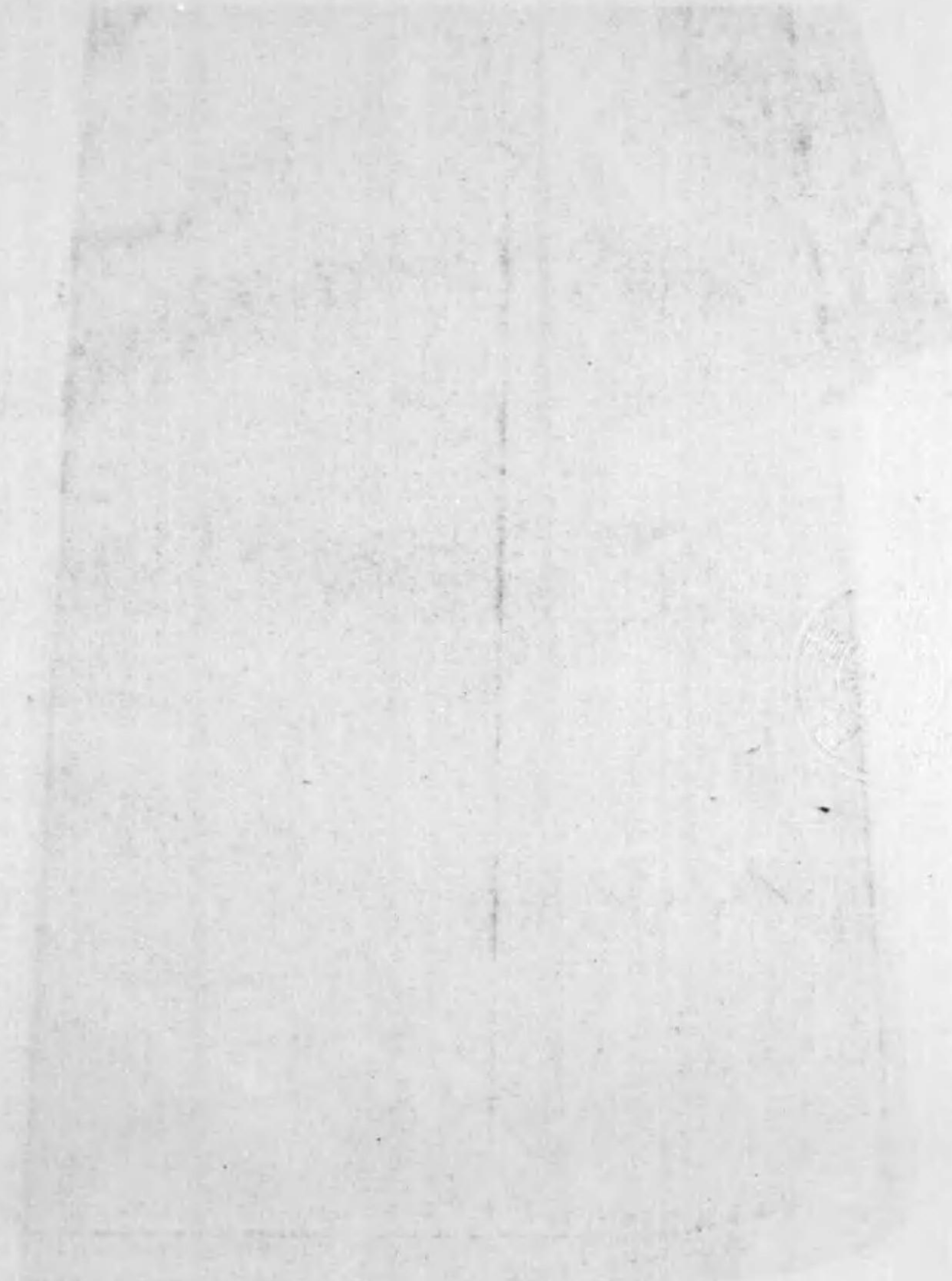


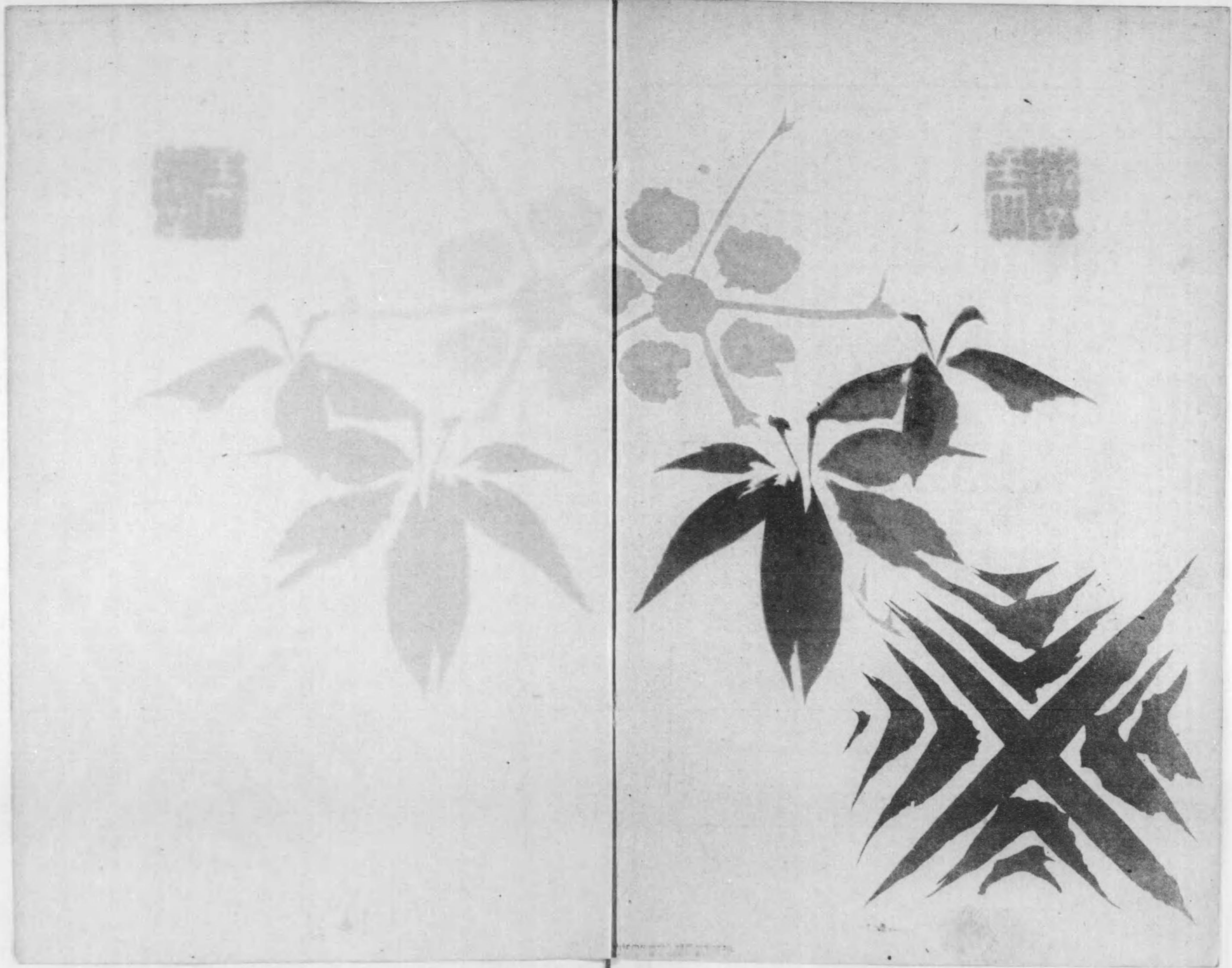
福井織染店新圖

大御代の巻 第五拾貳圖



福井県立美術館蔵





327
729

1/2
(K)

終

